岩橋千塚古墳群寺内地区

― 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書 ―

2024年３月

公益財団法人　和歌山県文化財センター

岩橋千塚古墳群寺内地区

― 和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書 ―

2024年３月

公益財団法人　和歌山県文化財センター

1　調査区１完掘（西から）

2　調査区２完掘（北東から）

序

岩橋千塚古墳群寺内地区は、和歌山市の寺内・井辺・森小手穂・吉礼・西に位置する古墳群で、岩橋千塚古墳群の南西の一角にあたります。

岩橋千塚古墳群は４～７世紀にかけて数多くの古墳が築かれました。また、古墳数が全国でも有数の古墳群であり、その一部は国指定特別史跡に指定されています。

古墳群南西部には和田遺跡や神前遺跡、井辺遺跡などの集落跡や水田跡が広がり、西側には古墳時代末から中世初頭に開削された宮井新溝を前身に持つ農業用水が南流しています。この宮井新溝の開削主体は、日前宮とも言われており、この農業用水開発の背景には、中世に、岩橋千塚古墳群寺内地区の東側の土地開発に関係していた根来寺勢力への対抗措置があったとも言われており、和歌山県北部の中世史の一端が垣間見えるものです。

また、調査地の北東部は平成27・28年度に調査が行われた相方遺跡に隣接しており、弥生時代から中世にかけての竪穴建物や掘立柱建物などの遺構や土師器や須恵器をはじめとした様々な遺物が確認されています。

このたび、和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴い、発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝、古代から中世にかけて埋没した自然地形の落込み、中世以降に埋没したと考えられる溝を発見し、調査地周辺の土地利用の変遷などが明らかとなりました。これらの成果をまとめて、発掘調査報告書として刊行いたします。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和６年３月８日

公益財団法人　和歌山県文化財センター

理 事 長　　櫻 井 敏 雄

例　言

1．本書は和歌山県和歌山市森小手穂に所在する岩橋千塚古墳群寺内地区の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴うもので、令和５年度に発掘調査及び出土遺物等整理業務を実施した。
3．発掘調査及び出土遺物等整理業務は、農林水産省近畿農政局和歌山平野農地防災事業所の委託を受け和歌山県教育委員会指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
4．発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は下記の通りである。

事務局長（管理課長兼務）	平林　照浩
埋蔵文化財課長	髙橋　智也
発掘調査・出土遺物等整理業務	濵﨑　範子

5．本書の編集・執筆、遺構及び遺物写真の撮影は濵﨑が行った。
6．発掘調査及び出土遺物整理に際し、下記の関係諸機関よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表す。（五十音順）
和歌山県海草振興局建設部・和歌山市
6．本事業の遂行にあたり、地元自治会、地域住民の方々から多大なご協力を頂いた。ここにあらためて感謝の意を表する。
7．出土遺物は和歌山県教育委員会が保管し、発掘調査及び出土遺物等整理業務において作成した実測図やデジタルデータ、台帳及び写真などの記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが保管している。

凡　例

1．遺構等の土層について記載した土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所監修『新版標準土色帖』（2016 年版）に基づいて記録した。
2．発掘調査及び出土遺物等整理作業は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006. 4）に準拠して行った。
3．調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成 14 年国土交通省告示第９号）第Ⅵ系のもので、値はm単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位（T.P^{+}）の数値である。
4．調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲し、遺構番号は調査区ごとに１からの通し番号である。
5．遺物図版の縮尺は、原則として 1/4 とした。また、遺物写真の縮尺については特に統一していない。
6．調査で使用した調査コードは、「調査年度下２桁－市町村コード・遺跡番号」で以下の通りである。出土遺物・記録類はこの調査コードを用い、管理している。
23-01・187（2023 年度-和歌山市・岩橋千塚古墳群寺内地区）

本文目次

第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1
第２章　調査の経緯と経過 …… 5
　第１節　調査の経緯 …… 5
　第２節　発掘調査と普及活動 …… 5
　第３節　出土遺物等整理業務 …… 6
第３章　既往の調査成果 …… 7
第４章　調査方法 …… 8
　第１節　地区割 …… 8
　第２節　調査現場の記録作業等 …… 9
第５章　調査の成果 …… 10
　第１節　調査概要 …… 10
　第２節　基本層序 …… 10
　第３節　遺構と遺物 …… 10
第６章　まとめ …… 20

挿図目次

図１　岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡 … 3
図２　調査区及び既往調査区位置図 …… 7
図３　地区割（大区画） …… 8
図４　地区割（中区画） …… 9
図５　地区割（小区画） …… 9
図６　基本層序（２区南壁） …… 10
図７　遺構配置図 …… 11・12
図８　２区南壁土層断面図 …… 13
図９　土坑・小穴実測図 …… 15
図10　２自然地形の落込み実測図 …… 17
図11　１溝土層断面図 …… 18
図12　出土遺物実測図 …… 19
図13　調査地周辺の土地利用変遷案 …… 20

表目次

表１　岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡一覧 … 4
表２　遺構一覧 …… 14
表３　出土遺物観察表 …… 21

写 真 図 版 目 次

巻頭カラー

調査区１完掘（西から）

調査区２完掘（北東から）

写真図版１

1　調査地遠景（北東から）

2　調査前風景（西から）

写真図版２

1　30 土坑南壁土層断面（北から）

2　31 土坑南東壁土層断面（北西から）

3　34 土坑東壁土層断面（西から）

写真図版３

1　37 小穴北東壁土層断面（南西から）

2　46・48 土坑南壁土層断面１（北から）

3　48 土坑北壁土層断面２（南から）

写真図版４

1　46・49 土坑東壁土層断面（西から）

2　48 土坑西壁土層断面（東から）

3　52・53 土坑北壁土層断面（南から）

写真図版５

1　２自然地形の落込みベルト１土層断面（西から）

2　２自然地形の落込みベルト２土層断面（西から）

3　２自然地形の落込みベルト３土層断面（西から）

写真図版６

1　土坑・小穴完掘状況（北から）

2　２自然地形の落込み・土坑・小穴完掘状況（北東から）

写真図版７

1　１溝サブトレンチ１土層断面（東から）

2　１溝サブトレンチ２土層断面（西から）

3　１溝サブトレンチ３土層断面（西から）

写真図版８

出土遺物１

写真図版９

出土遺物２

第１章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

岩橋千塚古墳群寺内地区のある和歌山市は和歌山県の北西部に位置する。市域の北側を大断層である中央構造線が東西に横断し、断層の北側は内帯、南側は外帯に分けられる。紀の川はこの中央構造線に沿って西流し、市西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川の北側には大阪府との府県境界となる和泉山脈が東西に延びており、南側には三波川変成帯が広がっているが長年の浸食により和歌山平野には大小の山塊が点在している。岩橋千塚古墳群もそれらの山塊及びその周囲に展開している。

調査地の現況は道路及び農業用水路、果樹園である。地元での聞き取り及び米軍撮影の航空写真などから戦前は調査区南の丘陵裾部まで水田が広がっていたようであるが、次第に丘陵斜面地と裾部の一部は柿や柑橘類の果樹園となったようである。

第２節　歴史的環境（図１）

岩橋千塚古墳群寺内地区が所在する岩橋山塊周辺は、縄文時代より多くの遺跡の展開が見られる。以下、周辺の代表的な遺跡について記述する。

縄文時代　岩橋山塊周辺には、縄文時代の前期から晩期にかけて形成された遺跡が認められる。昭和６年に国史跡に指定された鳴神貝塚のほか、禰宜貝塚（176）、吉礼貝塚（298）、岡崎縄文遺跡（309）がそれにあたる。鳴神貝塚では、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が出土しており、抜歯をされた女性を埋葬した土壙墓が検出されている。禰宜貝塚では前期から後期にかけての遺物が出土しているほか、多くの骨角器がみつかっている。これらの貝塚からはいずれもヤマトシジミ、カキ、ハイガイ、ハマグリなどの汽水産、海産の貝類が出土している。

弥生時代　弥生時代前期から中期にかけて紀の川南岸の平野部で多くの遺跡が展開するようになる。ＪＲ和歌山駅東側に広がる太田・黒田遺跡は大規模な集落跡で前期から中期にかけての竪穴建物跡や前期末とみられる大規模な溝が開削されている。集落東部では銅鐸が出土している。この他前期から中期の遺跡として秋月遺跡、和田遺跡（301）、神前遺跡がある。和田遺跡では県内で最も古い段階と考えられる前期中葉の弥生土器の一括資料が土坑から出土している。神前遺跡では弥生時代前期から庄内期にかけての溝が多数検出されている。弥生時代中期後半から後期前半にかけて平野部の遺跡が減少する一方で丘陵部では滝ヶ峯遺跡のような高地性集落とみられる遺跡が出現する。和田川を挟んで対岸の丘陵上に位置する菖蒲谷遺跡（254）では弥生時代中期の方形周溝墓が５基検出されている。また隣接する千石山遺跡（256）では台状墓４基が検出されている。弥生時代後期後半になると前述の高地性集落は継続せず、再び平野部に遺跡が展開する。太田・黒田遺跡、井辺遺跡（308）、津秦遺跡がそれらにあたり、古墳時代前期まで継続する。また近年の調査成果により、明確な集落の痕跡は確認できないものの、和田岩坪遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代前期の自然流路を検出し、多数の土器、木器のほか種実を中心とする植物遺存体が出土した。このことから周囲に当該時期の集落が想定できる。

古墳時代　岩橋千塚古墳群（182～187）は全国的にも有数の群集墳として知られる。岩橋山塊とその周辺の古墳群も含めると４世紀末から７世紀にかけて900基を超える前方後円墳・円墳などが築かれている。後期の主要な古墳には結晶片岩を積み上げ、石梁や石棚を持つ「岩橋型」

と通称される横穴式石室が構築されている。岩橋千塚古墳群の大日山地区に所在する大日山35号墳では多種多様な埴輪が出土しているほか、秋月遺跡、鳴神Ｖ遺跡では平野部に築造された円墳・方墳が古墳時代初頭から後期にかけて確認されている。

古代　古代においては紀伊一宮の日前・国懸神社が造営され、日前宮南の平坦部には方位がＮ－５°～6.5°－Ｗの条里地割が確認できる。太田・黒田遺跡では井戸から和同開珎や万年通宝が、鳴滝Ｖ遺跡からは陶硯、緑釉陶器、土馬などが出土している。

中世以降　神前遺跡では鎌倉時代の溝や耕作痕が確認されている。また、鎌倉時代に整備された宮井用水の一つである「中溝」水路の肩とみられる遺構が検出されており、これに伴う屋敷地の区画溝も検出されている。

太田・黒田遺跡は羽柴秀吉による紀州征伐に伴う水攻めで知られた太田城の推定地があるが、既往調査において幅10ｍ、深さ３ｍの16世紀代とみられる堀状遺構や、土塁などが確認されており、いずれも太田城及び水攻めに伴う遺構と見られる。

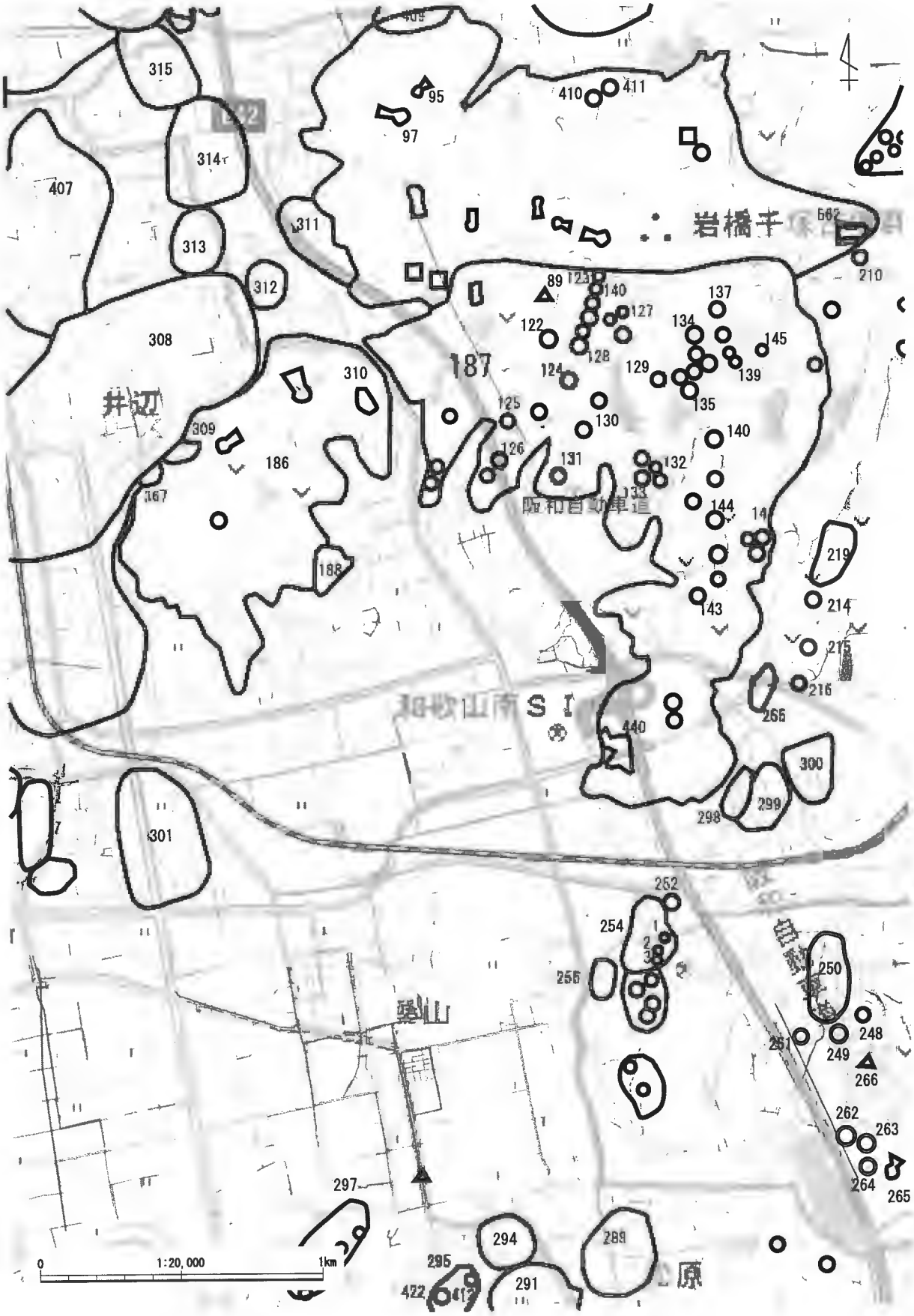


図１　岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡
（和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図）

表１　岩橋千塚古墳群寺内地区周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	種　別	時　代	立　地	概　　要
174	禰宜Ⅰ遺跡	禰宜	散布地		丘陵裾	土師器
175	禰宜Ⅱ遺跡	禰宜	散布地	縄文	丘陵裾	サヌカイト
176	禰宜貝塚	禰宜	貝塚	縄文(前期～後期)	丘陵裾	縄文土器、石器(匙、錐、鏃、錘、斧)、骨角器(骨針、牙製ナイフ)、ハイガイ、ヤマトシジミ、ハマグリ、マガキ、その他
177	河南中学校北方遺跡	和佐中	散布地		沖積地	土師器(旧河南中学校所在地北方)
178	和佐中遺跡	和佐中	散布地		沖積地	土師器
179	和佐寺跡	禰宜	寺院跡		丘陵端	瓦
182	和坂古墳	禰宜	古墳	古墳	山腹	円墳
183-1～9	岩橋千塚古墳群和佐地区	下和佐	古墳群	古墳	丘陵	9基の古墳からなる
184	岩橋千塚古墳群花山古墳群	鳴神、岩橋、栗栖	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳9基、円墳89基からなる
185	岩橋千塚古墳群	岩橋、鳴神、井辺、寺内	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳13基、方墳4基、円墳455基からなる
185-562	岩橋千塚古墳群天王塚古墳	下和佐	古墳	古墳	丘陵	
186	岩橋千塚古墳群井辺前山古墳群	井辺、岡崎、寺内、神前、西、森小手穂	古墳群	古墳	山腹	前方後円墳15基、円墳60基からなる
187	岩橋千塚寺内古墳群	寺内、森小手穂、吉礼	古墳群	古墳	山腹	円墳33基からなる
188	森小手穂遺跡	森小手穂	散布地	古墳	丘陵	須恵器、土師器、瓦等
209～215	山東古墳群	禰宜、明王寺	古墳群	古墳	丘陵	21基
218	若林古墳群	平尾	古墳群	古墳	丘陵	3基
219	吉礼砂羅谷窯跡	吉礼	窯跡	古墳～奈良	丘陵麓	須恵器
220～222	平尾古墳群	平尾	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
245	伊太祈曽神社古墳群	伊太祈曽	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
246	チショ古墳	口須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、径7.5m、高さ2m、直刀
247～249	城ヶ森古墳群	吉礼	古墳群	古墳	丘陵	3基
250	城ヶ森遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵	弥生土器
251	相坂古墳	相坂	古墳	古墳	丘陵	円墳
252、253	千石山古墳群	井戸	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
254	菖蒲谷遺跡	井戸	散布地	弥生～古墳	丘陵	方形周溝墓、台上墓、土師器、須恵器
255	吉礼Ⅲ遺跡	吉礼	散布地	弥生～中世	丘陵斜面	中世の水田跡、畦畔、流路など
256	千石山遺跡	井戸	散布地	弥生	丘陵斜面	弥生土器
257～259	井戸古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
260	馬場古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	2基
261	馬場遺跡	相坂	散布地	弥生	丘陵斜面	弥生土器
262～265	東池古墳群	相坂	古墳群	古墳	丘陵	円墳4基
266	吉里銅鐸出土地	吉里	出土地	弥生	丘陵	袈裟襷文銅鐸
267	小山古墳	吉里	古墳	古墳	丘陵	円墳?、横穴式石室?
268	奥須佐窯跡	奥須佐	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、坏)
269	円満寺古墳	奥須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、横穴式石室、須恵器、(坩、坏)
270	塞古墳	奥須佐	古墳	古墳	丘陵	円墳、径16.5m、高1.5m、竪穴式石室、埴輪(円筒、盾、人、家)、須恵器
271	西光寺窯跡	奥須佐	窯跡	奈良	丘陵	須恵器(壺、甕、坏)
272	吉里１号窯跡	吉里	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、甕、坏)
273	吉里２号窯跡	吉里	窯跡	奈良	丘陵麓	須恵器(壺、甕、坏)
274	頭蛇寺古墳	頭陀寺	古墳	古墳	丘陵	円墳
275	頭蛇寺遺跡	頭陀寺	散布地	弥生	丘陵麓	寺院跡もある。石鏃、瓦
279、280	松原古墳群	松原	古墳群	古墳	丘陵	2基
281	滝ヶ峯古墳群	薬勝寺	古墳群	古墳	丘陵	円墳3基
282	滝ヶ峯遺跡	薬勝寺(海南市多田)	集落跡(貝塚)	弥生	丘陵鞍部(標高80m)	
283	薬勝寺南山古墳群	薬勝寺	古墳群	古墳	丘陵	
284	仁井辺遺跡	小瀬田	散布地	古墳	平地	
285	薬勝寺跡	薬勝寺	寺院跡	奈良～平安	台地	
286	薬勝寺遺跡	薬勝寺	散布地	弥生	台地	
287	松原Ⅰ遺跡	松原	散布地		丘陵端	
288	松原Ⅱ遺跡	松原	散布地		丘陵端	
289	薬師谷遺跡	江南	散布地	縄文	丘陵	
290	江南遺跡	江南	散布地		丘陵	
291	曽垣田遺跡	江南	散布地	古墳	丘陵端	
292	曽垣田Ⅱ遺跡	江南	散布地		丘陵端	
293	曽垣田古墳	江南	古墳	古墳	丘陵端	
294	城の前Ⅱ遺跡	朝日	散布地		丘陵端	
295	城の前Ⅰ遺跡	朝日	散布地		丘陵端	
296	大池遺跡	朝日	散布地		池畔	
297	赤津古墳群	朝日	古墳群	古墳	丘陵	
298	吉礼貝塚	吉礼	貝塚	縄文	丘陵麓	
299	西吉礼遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵端	
300	東吉礼遺跡	吉礼	散布地	弥生	丘陵端	
301	和田遺跡	和田	散布地	弥生	沖積地	
307	神前遺跡	神前	集落跡、用水路	弥生～江戸	沖積地	
308	井辺遺跡	井辺、神前	集落跡、墳墓	弥生～古墳	沖積地	
309	岡崎縄文遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵端	
310	森小手埴輪窯跡	森小手穂	窯跡	古墳	山麓	
311	大日山Ⅰ遺跡	井辺	集落跡	古墳～奈良	丘陵端	
312	井辺Ⅰ遺跡	井辺	散布地	弥生～古墳	平地	
313	井辺Ⅱ遺跡	井辺	貝塚、墓	弥生～古墳	平地	
314	鳴神Ⅱ遺跡	鳴神	集落跡	弥生～平安	平地	
315	鳴神Ⅲ遺跡	鳴神	散布地		平地	
317	鳴神貝塚	鳴神	散布地	縄文～弥生	丘陵麓	
319	音浦遺跡	鳴神	用水路跡	古墳	平地	
321	岩橋遺跡	岩橋	散布地	平安～鎌倉	丘陵端	
322	栗栖Ⅰ遺跡	栗栖	散布地	古墳	丘陵端	
323	栗栖Ⅱ遺跡	栗栖	散布地		丘陵端	
324	高橋神社遺跡	岩橋	散布地		平地	
353	興徳寺跡	鳴神	寺院跡	中世	花山丘陵の西南斜面	
361	冬野遺跡	冬野	散布地	中世	丘陵麓	
367	井辺Ⅲ遺跡	井辺	散布地	縄文	丘陵麓	
370	朝日石槍出土地	朝日	出土地	弥生	平地	
381	岩橋Ⅱ遺跡	岩橋	散布地	古墳～室町	平地	
409	岩橋Ⅲ遺跡	岩橋	散布地	平安、江戸	丘陵端	
412	城ノ前Ⅰ号墳	朝日	古墳	古墳	丘陵	
413	境原遺跡	境原	散布地	弥生～室町	丘陵裾部	
414	薬勝寺Ⅱ遺跡	黒谷	散布地	弥生～奈良	孤立丘陵	
415	本渡遺跡	本渡	散布地	古墳～平安	丘陵裾	
422	朝日蔵骨器出土地	朝日	墳墓	奈良	山腹	
427	岩橋高柳遺跡	岩橋	集落	古墳、中近世	沖積地	
440	相方遺跡	森小手穂	散布地	古墳～中世	丘陵裾	

※グレーの遺跡は過去に調査された遺跡

第２章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

調査は近畿農政局和歌山平野農地防災事業所（以下、和歌山平野農地防災事業所という。）により新溝支線水路工事が計画され、事業予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「岩橋千塚古墳群寺内地区」内に位置していたことに起因する。令和３年８月 17 日付け３近和第 407 号で和歌山平野農地防災事業所長より、和歌山県教育委員会（以下、県教育委員会という。）へ文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が行われ、これに対し令和３年８月 26 日付け文第 04010016 号の（35）で確認調査を必要とする旨の通知を県教育委員会が和歌山平野農地防災事業所長に行った。その後、令和３年 11 月 25 日付け３近和第 564 号及び令和４年５月 23 日付け４近和第 5184 号で和歌山平野農地防災事業所長より県教育委員会へ確認調査の実施について依頼があり、県教育委員会は令和３年 12 月１日付け文第 04260002 号の 14 及び令和４年５月 27 日付け文第 05270052 号でこれを受諾し、和歌山平野農地防災事業（新溝支線水路工事）に伴う岩橋千塚古墳群寺内地区確認調査として実施した。現地調査は、令和４年３月 23 日・24 日、令和４年７月 14 日・15 日の計４日間で、合計 24.0 ㎡の範囲で行われた。

その結果、県教育委員会により事業予定地については記録保存目的の本発掘調査が必要と判断されたため、和歌山平野農地防災事業所長より県教育委員会へ発掘調査の実施について依頼があった。これを受けて公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、当センターという。）に県教育委員会より令和５年２月 15 日付け文第 02150004 号で実施計画書提出の依頼があり、令和５年３月 13 日付け和文セ第 342 号でこれを提出した。

その後、令和５年３月 14 日付け文第 042150004 号の２で当センターへ県教育委員会より和歌山平野農地防災事業所長と委託契約を締結するよう依頼があり、令和５年４月 13 日付けで和歌山平野農地防災事業所長と当センターとで「令和５年度和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務」の契約を締結した。契約期間は令和６年３月 31 日までである。

第２節　発掘調査と普及活動

１．発掘調査

契約後、当センターは令和５年５月８日付け和文セ第 647 号で文化財保護法第 92 条第１項の規定に基づく発掘調査届出書を和歌山県地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 55 条第１項及び県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第２条に基づき、和歌山市を経由して、県教育委員会に提出した。

発掘調査は、令和５年７月 10 日から一時休止期間を挟んで同年 11 月８日までの期間で実施した。なお、発掘調査に伴う工事は「和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務等に伴う岩橋千塚古墳群寺内地区発掘調査工事」として、ヤスキ水道工業株式会社に再委託した。調査地は平成 27 年度に実施した「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第１次発掘調査）の調査区西端に接する部分であり、現状は道路、農業用水路及び果樹園である。契約当初の調査面積は 461.1㎡であったが、既設カルバートボックスに隣接する部分はカル

バートボックス埋設時に遺構面以下まで攪乱されていたため、県教育委員会と協議の上、今回の対象範囲から除くこととなり、最終的に428.2㎡の調査を行った。

調査は調査地北側の道路部分を調査区１、南側の既設水路及び果樹園部分を調査区２として各区ごとに調査を実施した。県教育委員会による確認調査の成果を参考に、現在の道路等造成土や果樹園の表土及び旧耕作土を機械掘削の対象とし、遺構面から0.1ｍの保護層及び遺物包含層以下を人力掘削とした。調査対象地で確認した遺構面１面で、部分的に２面確認した。記録保存としての平面実測図・断面実測図を作成した。調査区１では調査地区隣接地を排土置き場として使用し、調査区２では掘削した土砂は後続する新溝支線水路工事の工程上、埋め戻しを行わず処分した。

２．普及活動

また調査期間中の令和５年11月６日（月）には、調査成果を県民に見ていただくため、現地公開を実施した。雨天ではあったが近隣住民を中心に６名に参加していただいた。

写真１　遺構掘削

写真２　現地公開

第３節　出土遺物等整理業務

１．出土遺物応急整理

出土遺物については、その時期決定を行い、調査方法の判断資料とするため当センター事務局整理棟において応急的な洗浄作業を実施し、出土遺物台帳の作成作業を実施した。また、現場で撮影した中判デジタルカメラ及び35mmフルサイズデジタルカメラのRAWデータはリネーム後、適切なデジタル現像を行い、TIFFデータに書き出して保管した。現地調査の遺構等の記録図面は、地区別・図面種別などの区分を行い図面ファイルに収め、応急的な整理を実施した。

２．出土遺物等整理業務

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。遺物の登録・注記・接合・補強・実測等の一連の作業を行うとともに遺構実測図の調整を行い、遺物実測図と共にデジタルトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。現場で撮影した遺構写真等について整理を行い、報告書掲載の遺物写真を撮影した。遺物写真と遺構写真の組版を行い、写真図版を作成した。

また、遺物観察表を作成するとともに一連の作業を踏まえて原稿執筆を行った。

業務は令和５年８月から実施し、一時調査区２の発掘調査等により出土遺物整理業務の休止期間を設けたが、令和６年３月に本書を刊行するに至った。

第３章　既往の調査成果（図２）

岩橋千塚古墳群寺内地区に所在する古墳については、「寺内古墳群」として昭和 42 年に関西大学考古学研究室よって実施された寺内 59 号墳・60 号墳の発掘調査をはじめとして県教育委員会（22 号墳など）、和歌山市教育委員会（57 号墳など）による発掘調査が行われている。

今調査地に直接関連する既往調査として、平成 27・28 年度にかけて「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」及び「海草振興局建設部調査移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業」に伴って岩橋千塚古墳群寺内地区（187）及び相方遺跡（440）の発掘調査が実施されている。調査地は丘陵部南西裾部に位置する 4,022㎡であり、開析谷を流れる自然流路と、微高地には弥生時代の竪穴建物数棟のほか、古墳時代の竪穴建物、古代から中世の掘立柱建物、溜枡、平安時代の水路跡、鎌倉時代の堀立柱建物、土坑、溝など各種の遺構と多量の遺物が確認されている。また、平成 29 年度に県教育委員会が実施した試掘確認調査においても、従前の調査で確認された自然流路の延長部分と、弥生時代から古墳時代の竪穴建物をはじめとする各種の遺構が検出されている。このため岩橋千塚古墳群寺内地区の南西部は丘陵上に位置する古墳群と丘陵裾部に展開する弥生時代から中世までの集落跡である相方遺跡とに分けて考えることができる。

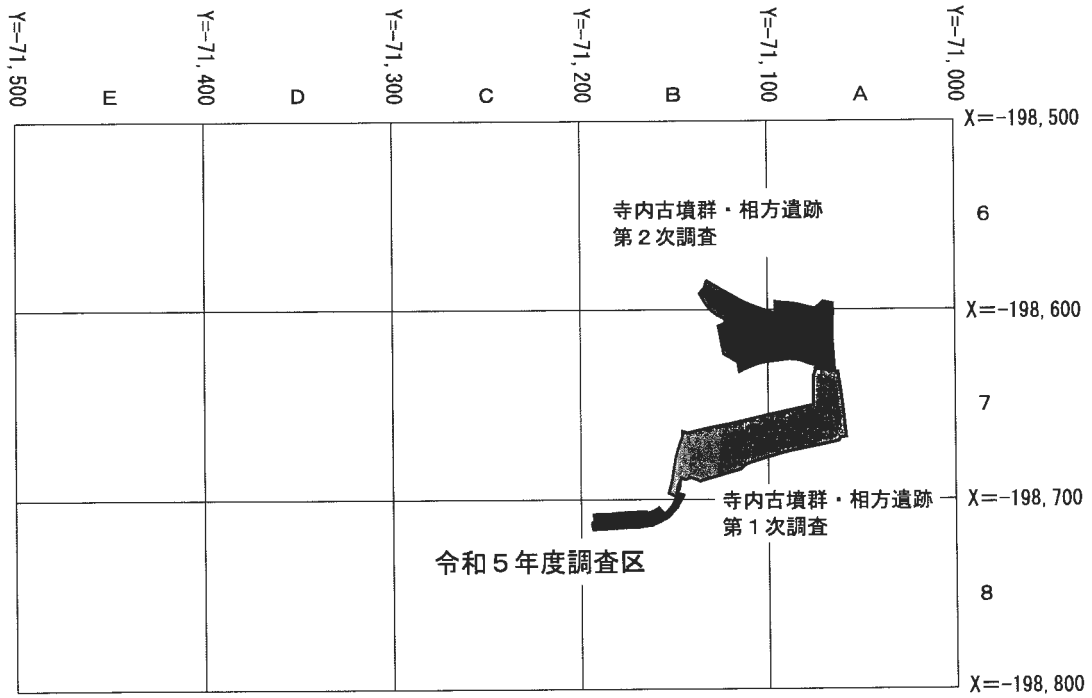


図２　調査区及び既往調査区位置図

第４章　調査方法

第１節　地区割（図３～５）

調査区の地区割は、平成 27 年度に実施した「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第１次発掘調査）及び平成 28 年度に実施した「海草振興局建設部調査移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第２次発掘調査）で設定した平面直角座標系（平成 14 年度国土交通省告示第９号）第Ⅵ系を使用し遺跡を網羅する北東に基点（Ｘ＝-195,000ｍ、Ｙ＝-70,000ｍ）を設け、その点から南西にむかって大区画・中区画・小区画を設けて区割を行った。大区画は西方向、南方向へそれぞれ１km 四方の区画を１単位とし、基点から西方向へローマ数字Ⅰ～Ⅲ、南方向へアラビア数字で１～４と表記した。これにより今回の調査区は大区画Ⅱ４区に位置する。中区画は大区画Ⅱ４区画の北東隅をＡ地点と定めて、西方向へ 100ｍごとにＢ、Ｃ、Ｄ…、南方向に２、３、４…という軸を設定した１辺 100ｍ四方の区画で、北東隅の地区名を用いてＡ１、Ｃ３などと呼称する。中区画の北東隅をａ１地点として、そこから４ｍずつ西方向へｂ～ｙ、南方向へ２～25 とそれぞれの方向に 25 分割し、一辺４ｍの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からａ１区～ｙ25 区と呼称する。地区名は、中区画－小区画（Ａ１－ａ１区など）で表す。今回の調査区は、中区画でＢ７・Ｂ８の範囲内に位置する。

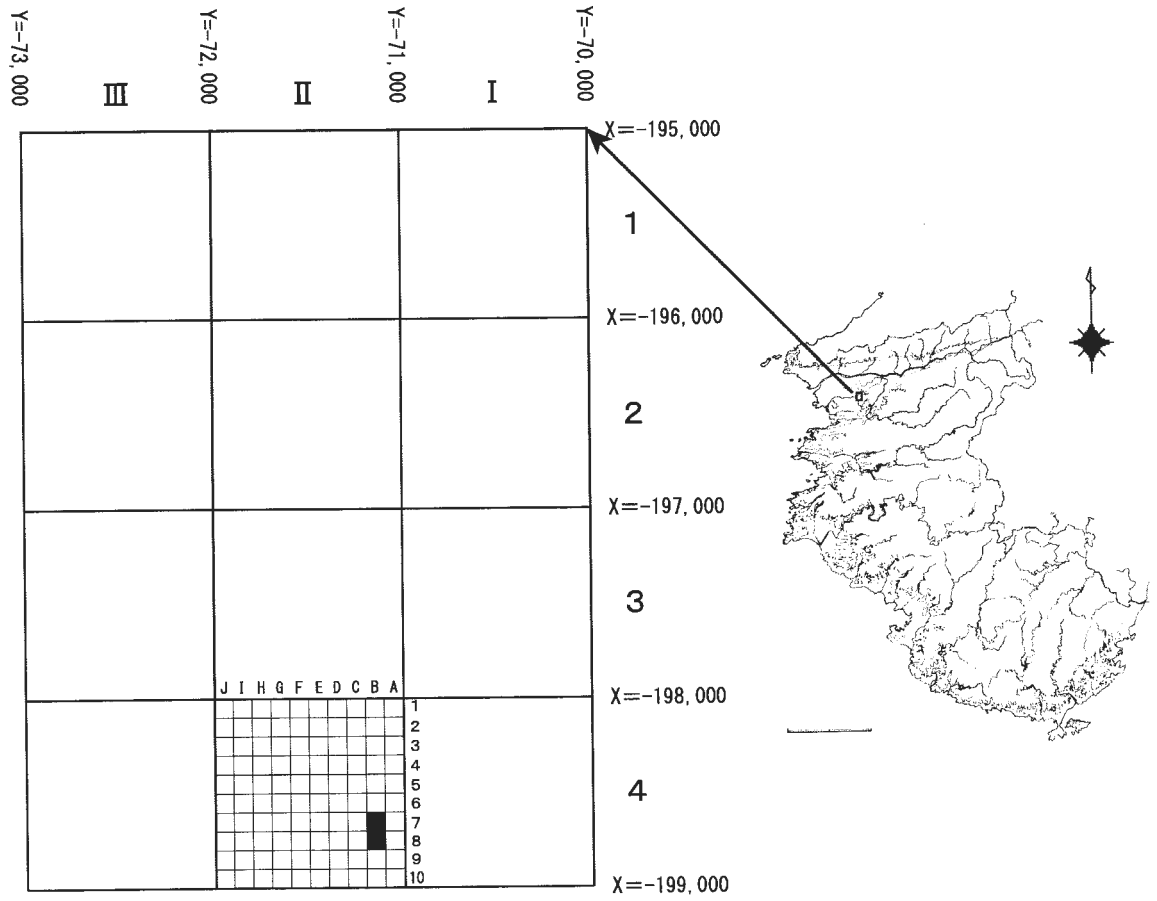


図３　地区割（大区画）

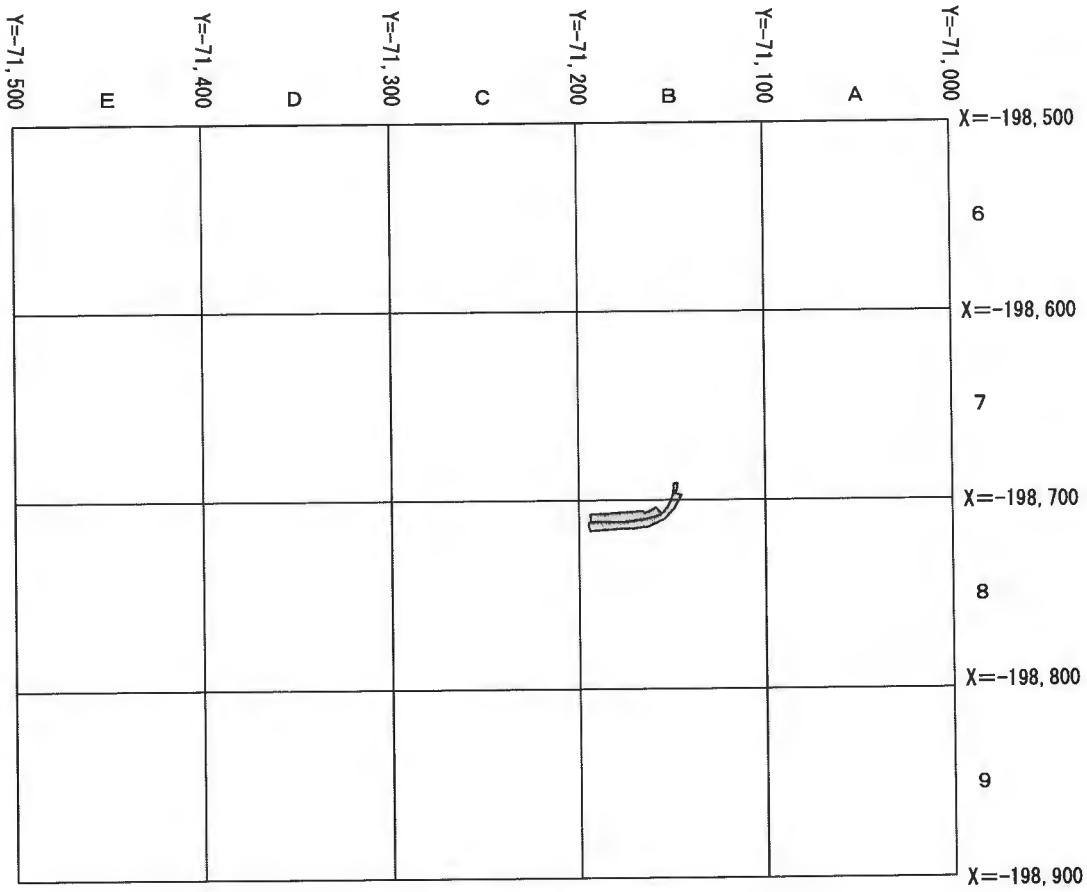


図４　地区割（中区画）

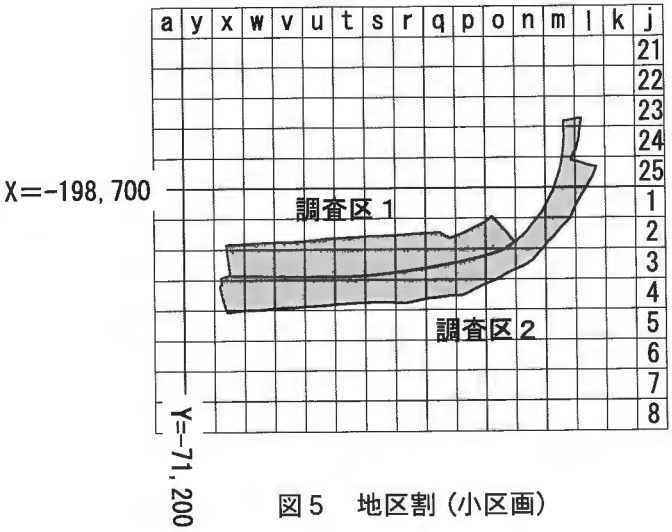


図５　地区割（小区画）

発掘調査は、造成土及び遺物包含層より上を建設重機による機械掘削で、遺構面保護層 0.1ｍもしくは遺物包含層以下を人力掘削で進めた。また、状況に応じ、下層確認トレンチを設定し、遺構面以下の土層堆積状況を確認した。

第２節　調査現場の記録作業等

岩橋千塚古墳群寺内地区の調査に伴い、下記に示す記録作業等を行った。

記録は、写真撮影と実測図面作成を行った。写真撮影については、中判デジタルカメラ及び記録用の 35mm フルサイズデジタルカメラを使用し、デジタル画像データ（RAW データ及び JPEG データ）には全てファイルごとに撮影内容を記載して保存している。記録図面は、縮尺１：20 の遺構実測図（遺構平面図・断面土層図）及び遺構位置全体図を作成した。また、調査区２は南壁断面を基本とし、必要に応じて土層図などを記録として作成した。

第５章　調査の成果

第１節　調査概要（図７、写真図版１）

調査区は北側の道路部分である調査区１との南側の既設水路及びその南にある果樹園及び畑の一部である調査区２に分かれる。

検出した遺構は、古墳時代後期から古代までの土坑や小穴、谷状地形及び丘陵末端の自然地形の落込み、中世の土坑、小穴、溝などである。

第２節　基本層序（図６・８）

調査区２の南側断面土層の基本層序について記述する。

第１層：現代の果樹園耕土、既設道路並びに水路の造成土・攪乱である。標高 3.80ｍ～4.00ｍで、東西方向にほぼ水平を保つ。

第２層：旧水田耕作土及びその床土である。

第３層：にぶい黄橙色から灰黄褐色の細砂を主体とする土層で弥生時代から中世の遺物を少量含む遺物包含層である。

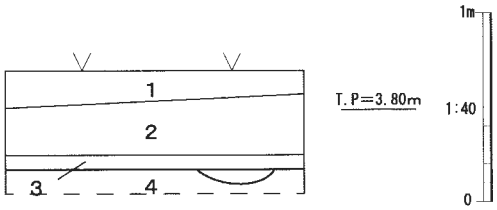


図６　基本層序（２区南壁）

第４層：黄褐色から明褐色の土層で背後の丘陵を構成する軟質岩盤及びその風化土が堆積した土層である。無遺物層で、遺構の多くは第４層上面から掘り込まれており、この上面が遺構面を形成する基盤層と考える。調査区北東では標高 3.50ｍ、西端では 3.40ｍで現況の第１層と同じくほぼ水平を保つが、調査区の中央部では 2.90ｍまで下がる。これは後述する谷状地形によるものである。

第３節　遺構と遺物

〔古墳時代後期から古代の遺構と遺物〕

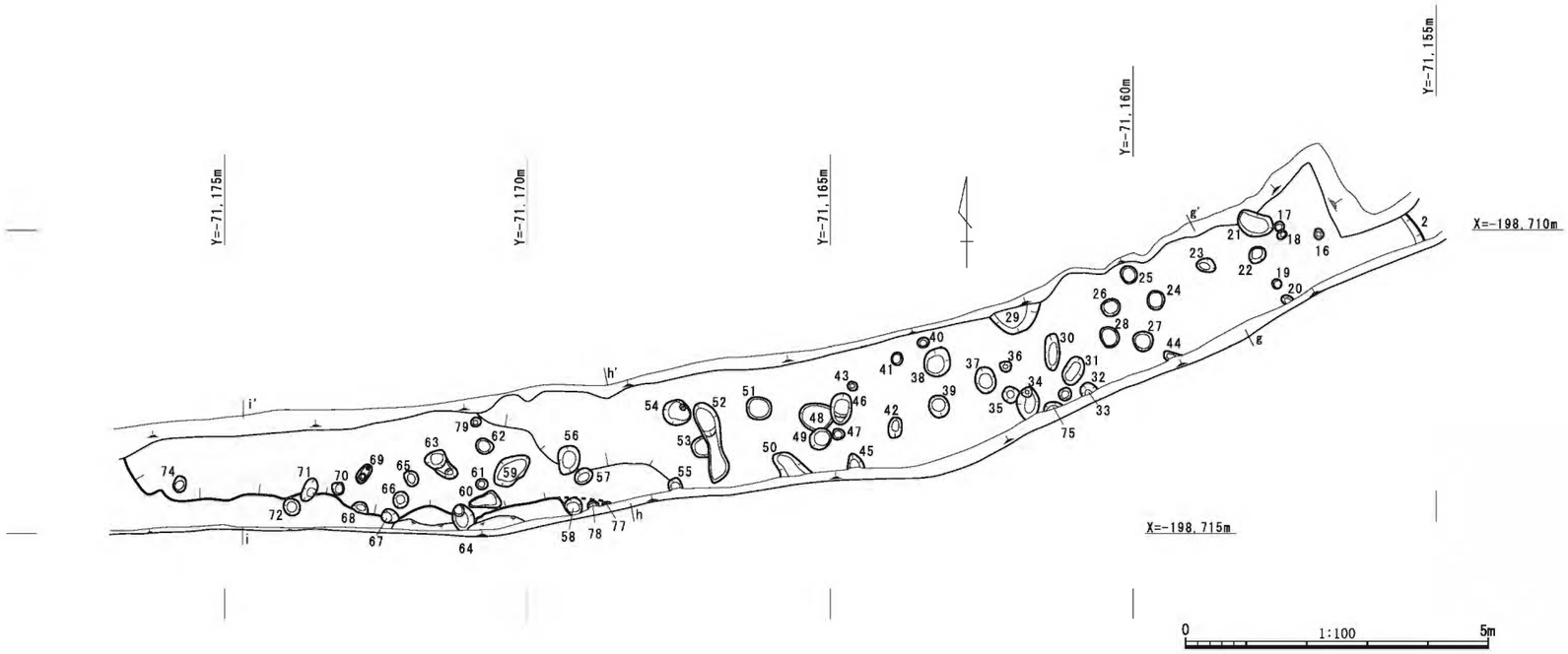
30 土坑から 53 小穴は後述の自然地形の落込み埋土の下にある第４層から掘り込まれる。

30 土坑（図９、写真図版２・６）　調査区２東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈する。長軸 0.60ｍ、短軸 0.24ｍ、深さ 0.22ｍ、断面形状は三角形である。出土遺物は古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

31 土坑（図９、写真図版２・６）　調査区２東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈している。長軸 0.5ｍ、短軸 0.32ｍ、深さ 0.20ｍ、断面形状はやや歪な台形状である。出土遺物は古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

34 土坑（図９、写真図版２・６）　調査区２東部で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、長軸 0.54ｍ、短軸 0.40ｍ、深さ 0.16ｍで断面形状は歪な船底形である。出土遺物は古墳時代中期から後期とみられる須恵器坏身（１）のほか古代とみられる土師器・須恵器の細片がある。

37 小穴（図９、写真図版３・６）　調査区２東部で検出した小穴で、平面形状は楕円形を呈し、長軸 0.44ｍ、短軸 0.32ｍ、深さ 0.18ｍで断面形状は三角形状である。出土遺物は古代とみられる須恵器の細片がある。



2 自然地形の落込み周辺平面図 (S=1/100)

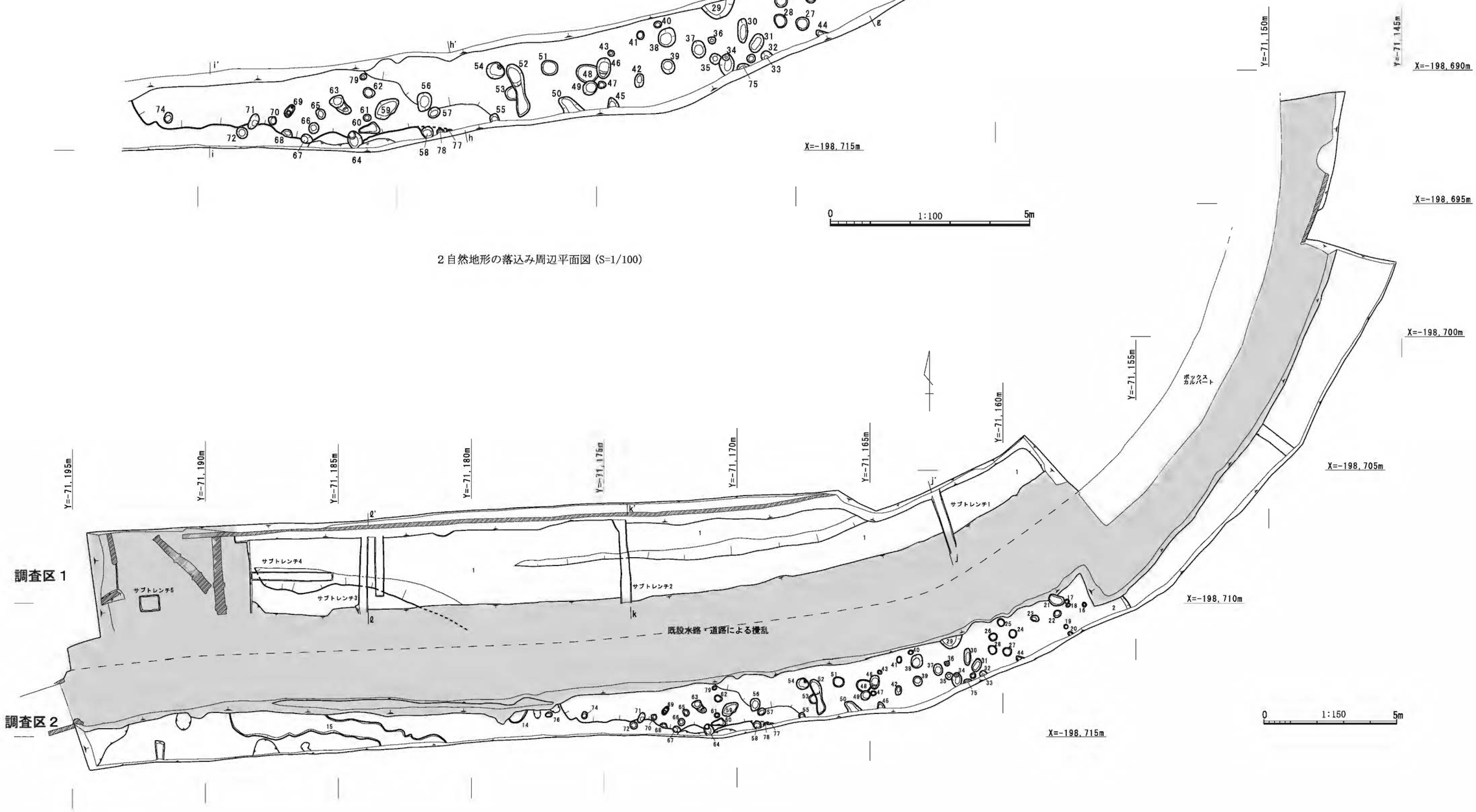


図7　遺構配置図

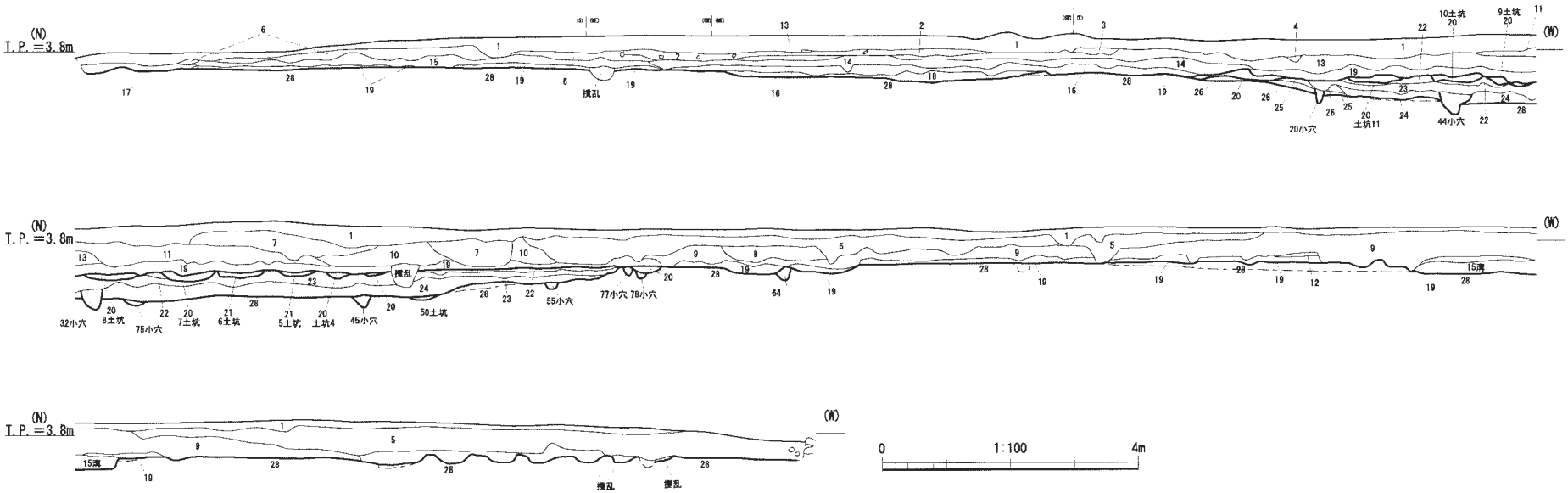


図８　２区南壁土層断面図

1　10YR4/4褐細砂混シルト
2　10YR5/3にぶい黄褐細～中粒砂混シルト
　φ1～10cm円礫・礫含
3　10YR4/2灰黄褐中粒砂混シルト
4　10YR4/4褐細砂混シルト
　10YR3/3暗褐シルト混
5　2.5Y4/4オリーブ褐細砂混シルト
6　7.5YR4/6褐細砂混シルト
　φ1～3cm礫少量含
7　2.5Y4/3オリーブ褐細砂混シルト
8　2.5Y4/4オリーブ褐細砂混シルト
　φ1～3cm礫少量含
9　10YR5/4にぶい黄褐細砂混シルト
　φ1～3cm礫少量含
10　2.5Y5/6黄褐細砂　シルト少量混
　φ1～3cm礫少量含
11　10YR5/3にぶい黄褐細砂　シルト多量混
12　2.5Y5/2暗灰黄シルト　鉄分沈着(旧水田床土)
13　10YR4/4褐細砂　シルト含
14　10YR5/4にぶい黄褐細砂混シルト
15　10YR5/4にぶい黄褐細～中粒砂混シルト
16　10YR6/4にぶい黄橙細砂　シルト多く混
　φ1～3cm礫少量含
17　7.5YR4/3褐シルト混細砂
18　10YR4/4褐細～中粒砂混シルト
　10YR6/3にぶい黄橙シルトブロック混
　φ1～3cm礫少量含
19　10YR6/3にぶい黄橙シルト　細砂多量混
20　10YR6/2灰黄褐シルト混細砂
　10YR6/8明黄褐シルトブロック少量含(鋤溝埋土)
21　10YR6/2灰黄褐シルト混細砂(鋤溝埋土)
22　10YR5/3にぶい黄褐中粒砂混シルト(2自然地形の落込み埋土)
23　10YR3/3暗褐シルト　細～中粒砂混
　φ1～3cm礫少量含(2自然地形の落込み埋土)
24　10YR4/4褐シルト　中粒砂混
　φ1～3cm礫含(2自然地形の落込み埋土)
25　10YR5/4にぶい黄褐細～中粒砂混シルト
　φ1～3cm礫少量含(2自然地形の落込み埋土)
26　10YR5/6黄褐シルト混中粒～粗砂(2自然地形の落込み埋土)
28　7.5YR5/6明褐～10YR6/6明黄褐岩（地山）

【20小穴】
1　10YR4/2灰黄褐シルト混中粒砂
【44小穴】
1　10YR4/3にぶい黄褐シルト混中粒～粗砂
【32・75小穴】
1　10YR4/2灰黄褐シルト混中粒～粗砂
【45小穴】
1　10YR4/4褐シルト混中粒砂
　φ1～3cm礫含
【50土坑・55・64小穴】
1　10YR5/4にぶい黄褐シルト混中粒砂
【77・78小穴】
1　10YR3/3暗褐シルト　中粒～粗砂多量混
【15溝】
1　7.5YR6/8橙シルト
　10YR3/2黒褐シルトブロック含
　φ1～3cm岩盤細片含

基本層序
１～６…第１層
７～18…第２層
19…第３層
20～21…中世以降の鋤溝埋土
22～26…２自然地形の落込み埋土
28…第４層

表２　遺構一覧

遺構番号	大区画	小区画	種類	形状	長さ(m) 長径	幅(m) 短径	深さ(m)	出土遺物	備考
1	B8		溝	溝状か	30.0	3.0	不明	弥生土器、 土師器、 須恵器、 瓦器、 近世陶磁器	図11、12
2	B8		落ち状遺構	不整形	21.50	約2.00	約0.80	弥生土器、 土師器、 須恵器、 瓦器、 近世磁器	図10、12
4	B8	q4	土坑	半円形	0.52	0.18	0.10		
5	B8	p4	土坑	半円形	0.64	0.28	0.06		
6	B8	p4	土坑	半円形	0.78	0.44	0.08		
7	B8	p4	土坑	半円形	0.80	0.34	0.12		
8	B8	p4	土坑	半楕円形	0.98	0.10	0.10		
9	B8	o・p4	土坑	半楕円形	0.84	0.28	0.08		
10	B8	o4	土坑	半楕円形	0.90	0.08	0.14		
11	B8	o4	土坑	半楕円形	0.90	0.12	0.12		
13	B8	s4	土坑	円形	0.50	0.47	0.18		
14	B8	t4	土坑	楕円形	0.28	0.40	0.12		
15	B8	u～w4	溝		8.30	最小:0.50 最大:0.68	0.12	土師器	
16	B8	o3	小穴	円形	0.18	0.14	0.14	土師器	
17	B8	o3	小穴	円形	0.14	0.14	0.40		底で21土坑とつながる
18	B8	o3	小穴	円形	0.14	0.16	0.10		
19	B8	o3	小穴	円形	0.14	0.14	0.24		
20	B8	o3	小穴	半円形	0.18	0.14	0.24		
21	B8	o3	土坑	楕円形	0.60	0.40	0.44	土師器	
22	B8	o3	小穴	円形	0.30	0.26	0.05		
23	B8	o3	小穴	楕円形	0.34	0.24	0.10		
24	B8	o3	小穴	円形	0.30	0.30	0.09		
25	B8	p3	小穴	円形	0.32	0.28	0.08		
26	B8	p3	小穴	円形	0.30	0.28	0.08		
27	B8	o3	小穴	円形	0.34	0.32	0.06		
28	B8	p3	小穴	円形	0.34	0.32	0.11		
29	B8	p3	土坑	半円形	0.90	0.42	0.10		
30	B8	p3・4	土坑	楕円形	0.60	0.24	0.22	土師器、 須恵器	図9
31	B8	p4	土坑	楕円形	0.50	0.32	0.20	土師器、 須恵器	図9
32	B8	p4	小穴	半円形	0.28	0.20	0.32		
33	B8	p4	小穴	円形	0.20	0.20	0.18		
34	B8	p4	土坑	楕円形	0.54	0.40	0.16	土師器、 須恵器	図9、図12
35	B8	p4	小穴	円形	0.28	0.24	0.12		34土坑より古い、図9
36	B8	p4	小穴	円形	0.20	0.20	0.08		
37	B8	p4	小穴	楕円形	0.44	0.32	0.18	須恵器	図9
38	B8	p4	小穴	円形	0.44	0.44	0.26	土師器	
39	B8	p4	小穴	円形	0.38	0.34	0.24		
40	B8	p4	小穴	円形	0.16	0.16	0.18		
41	B8	p4	小穴	楕円形	0.22	0.18	0.08		
42	B8	p4	小穴	楕円形	0.34	0.22	0.14		
43	B8	q4	小穴	円形	0.16	0.16	0.16		
44	B8	p4	小穴	半楕円形	0.30	0.12	0.32		
45	B8	q4	小穴	半楕円形	0.28	0.25	0.20		
46	B8	q4	土坑	楕円形	0.52	0.34	0.22		図9
47	B8	q4	小穴	円形	0.20	0.20	0.05		
48	B8	q4	土坑	楕円形	0.50(東西)	0.42(南北)	0.06		46土坑・49小穴より古い、図9
49	B8	q4	小穴	円形	0.40	0.32	0.32	土師器	図9
50	B8	q4	土坑	半楕円形	0.52	0.42	0.08		
51	B8	q4	小穴	円形	0.40	0.32	0.10		
52	B8	q4	土坑	溝状	1.32	0.28	0.06		図9
53	B8	q4	小穴	円形	0.36	0.26	0.08		図9
54	B8	q4	小穴	円形	0.46	0.40	0.06		52土坑より古い
55	B8	q4	小穴	半円形	0.12	0.80	0.12		
56	B8	r4	小穴	楕円形	0.40	0.34	0.38		
57	B8	r4	小穴	円形	0.34	0.26	0.24		
58	B8	r4	小穴	円形	0.28	0.26	0.18		
59	B8	r4	土坑	楕円形	0.70	0.40	0.36		
60	B8	r4	土坑	楕円形	0.54	0.32	0.20		
61	B8	r4	小穴	円形	0.20	0.20	0.10		
62	B8	r4	小穴	円形	0.30	0.26	0.14		
63	B8	r4	土坑	楕円形	0.58	0.26	0.20		
64	B8	r4	小穴	楕円形	0.42	0.36	0.20		
65	B8	r4	小穴	楕円形	0.28	0.22	0.08		
66	B8	s4	小穴	円形	0.30	0.28	0.14		
67	B8	s4	小穴	楕円形	0.30	0.24	0.24		
68	B8	s4	小穴	楕円形	0.28	0.20	0.22		
69	B8	s4	小穴	楕円形	0.34	0.18	0.10		
70	B8	s4	小穴	円形	0.20	0.20	0.16		
71	B8	s4	小穴	楕円形	0.42	0.20	0.28		
72	B8	s4	小穴	円形	0.30	0.29	0.07		
74	B8	s4	小穴	円形	0.22	0.20	0.26		
75	B8	p4	小穴	半円形	0.34	0.12	0.08	土師器	
76	B8	t4	小穴	楕円形	0.26	0.16	0.18		
77	B8	r4	小穴	半円形	0.12	0.06	0.14		
78	B8	r4	小穴	半円形	0.20	0.10	0.10		
79	B8	r4	小穴	円形	0.16	0.14	0.15		

※3・12・73は欠番
※数値は全て検出長

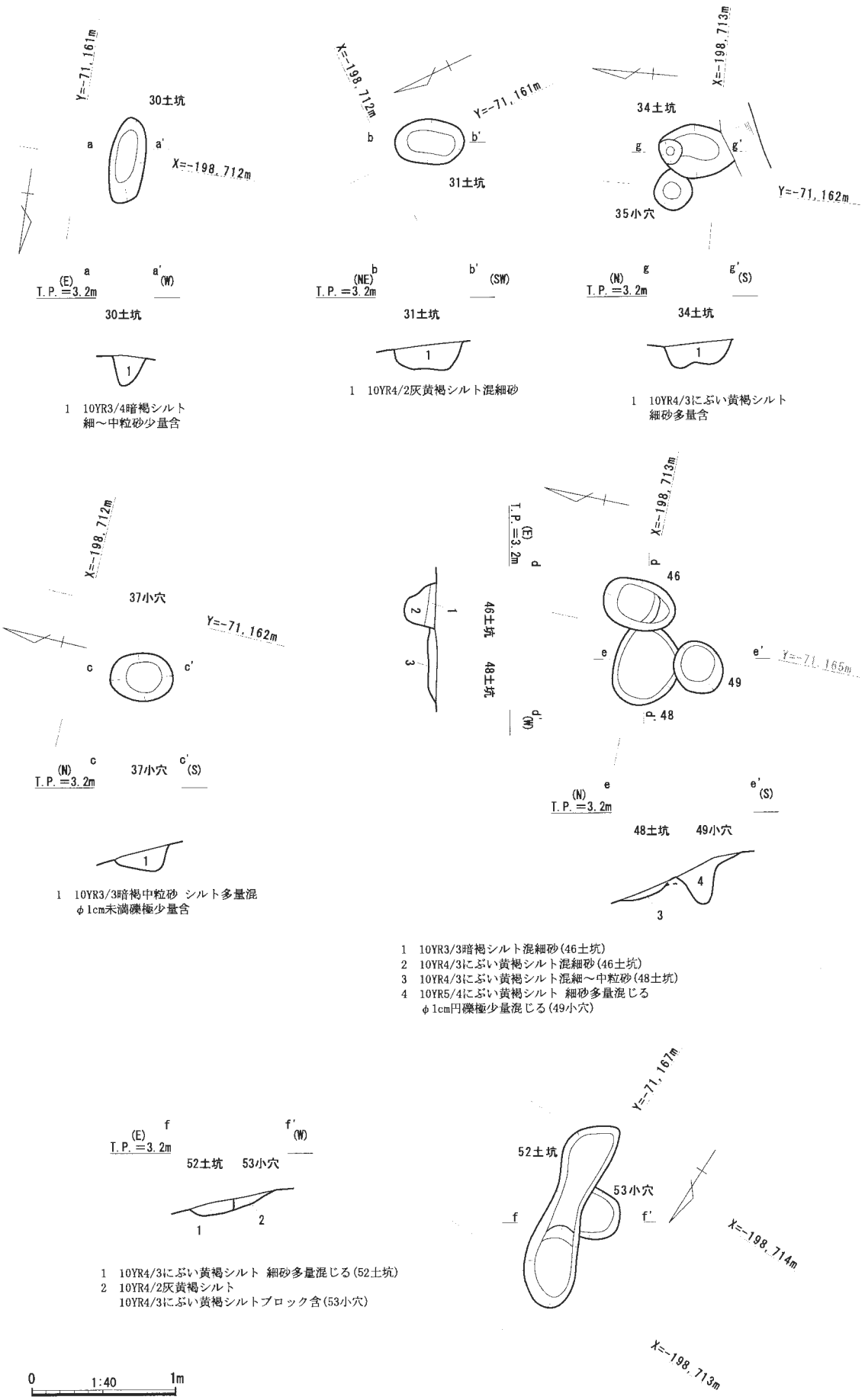

30土坑
31土坑
34土坑
35小穴
37小穴
46土坑
48土坑
49小穴
52土坑
53小穴
T.P.=3.2m
1 10YR3/4暗褐シルト
細～中粒砂少量含
1 10YR4/2灰黄褐シルト混細砂
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト
細砂多量含
1 10YR3/3暗褐中粒砂 シルト多量混
φ1cm未満礫極少量含
1 10YR3/3暗褐シルト混細砂(46土坑)
2 10YR4/3にぶい黄褐シルト混細砂(46土坑)
3 10YR4/3にぶい黄褐シルト混細～中粒砂(48土坑)
4 10YR5/4にぶい黄褐シルト 細砂多量混じる
φ1cm円礫極少量混じる(49小穴)
1 10YR4/3にぶい黄褐シルト 細砂多量混じる(52土坑)
2 10YR4/2灰黄褐シルト
10YR4/3にぶい黄褐シルトブロック含(53小穴)
0 1:40 1m

図9　土坑・小穴実測図

46 土坑（図９、写真図版３・４・６）　調査区２東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から48 土坑より新しい。平面形状は楕円形を呈しており、長軸 0.52ｍ、短軸 0.34ｍ、深さ 0.22ｍ、断面形状は歪な台形状である。出土遺物は古代とみられる土師器細片がある。

48 土坑（図９、写真図版３・４・６）　調査区２東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から 46 土坑・49 小穴より古い。平面形状は円形で長軸 0.50ｍ、短軸 0.42ｍ、深さ 0.06ｍ、断面形状はごく浅い船底形を呈する。出土遺物はなかった。

49 小穴（図９、写真図版４・６）　調査区２東部で検出した小穴で、平面形状は円形で長軸 0.40ｍ、短軸 0.32ｍ、深さ 0.32ｍ、断面形状は歪な三角形状である。出土遺物は土師器の細片がある。

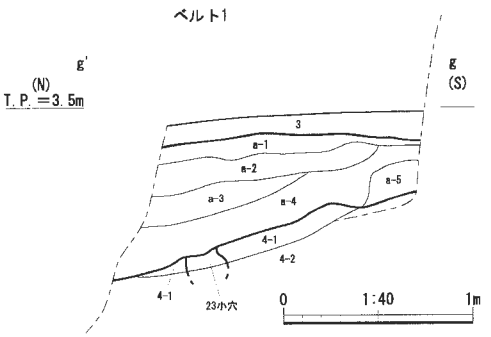
52 土坑（図９、写真図版４・６）　調査区２東部で検出した土坑で、遺構の前後関係から 53 小穴より新しい。平面形状は溝状で長軸は 1.32ｍ、短軸 0.28ｍ、深さは 0.08ｍ、断面形状は船底形である。出土遺物はなかった。

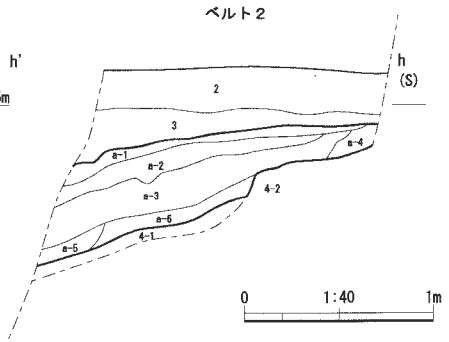
53 小穴（図９、写真図版４・６）　調査区２東部で検出した小穴で、遺構の前後関係から 52 土坑より古い。平面形状は円形で長軸は 0.63ｍ、短軸 0.26ｍ、深さは 0.06ｍである。出土遺物はなかった。

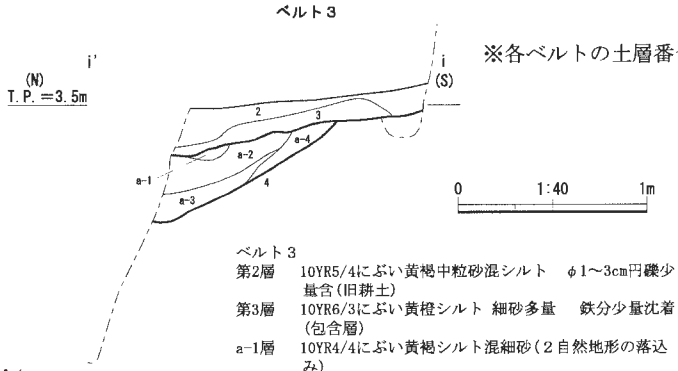
〔古代から中世の遺構と遺物〕

２自然地形の落込み（図 10、写真図版５・６）　調査区２で検出した自然地形だが、人為的に削平した可能性のある痕跡があるため、遺構として報告する。検出長 21.50ｍ、検出幅約 2.00ｍ、深さ約 0.80ｍ。遺構北側は既設水路により大きく攪乱されており、本来の規模や断面形状等については不明である。埋土は大きく上下２層（ａ－１～２層とａ－３～５層）に分けることができ、下層では古代の土師器甕の口縁部（２）、須恵器壺とみられる体部（３）が出土し、上層では古墳時代後期の須恵器坏身（４）、大甕の体部（９・10）古墳時代後期から古代とみられる甕または壷の口縁部（５～８）、土師器の坏（14）、古代の須恵器甕口縁部（11）、脚付壷（12・13）、土師器碗（15）、鉢（16）、古代末から中世の遺物として黒色土器Ａ類椀（17）、土師器かまど（18）が出土するほか、細片のため実測していないが弥生土器片や瓦器が出土しており、比較的量も多いことなどから、埋没時期は古墳時代後期から古代（下層）と中世以降（上層）の２時期が考えられる。ただし、埋土上層には土師器皿や国内産陶磁器などが出土しないことから、埋土上層の埋没時期は中世前半までと判断できる。また、埋土上層に多様な時期の遺物が含まれるのは、調査地北東にある相方遺跡や丘陵上及びその斜面地にあった遺物を押し流しながら埋没したためと考える。

出土した遺物の中には須恵器大甕の破片が複数含まれており、個体数の復元が困難ではあるが、調整や胎土の違いから複数個の大甕が存在していたことが推測できる。このため調査区南の丘陵上に未発見もしくはすでに削平された古墳があり、出土した須恵器は古墳祭祀に由来する大甕の破片の可能性も指摘しておきたい。遺構南側は丘陵部の小規模な谷状地形、その末端部に位置している。また、今回の調査区北東部にあたる平成 27 年度の既往調査地で丘陵末端の自然地形及び既設水路に沿った東西方向の落ち込み（51 自然地形の落込み）を確認しており、埋土に弥生時代から中世の遺物を含む。既往調査の 51 自然地形と２自然地形の落込みが関連すると考えられるが、51 自然地形の落込みには特に奈良時代の遺物を多く含むこと、また埋土に差異がみられることから連続するとは断定できない。２自然地形の落込みの埋土下の第４層上面で前述のとおり多くの土坑・小穴を検出している。







※各ベルトの土層番号は共通

ベルト1
第3層　10YR6/3にぶい黄橙シルト 細砂多量含　鉄分少量沈着(包含層)
a-1層 10YR4/3にぶい黄褐シルト 中粒砂多量混(２自然地形の落込み)
a-2層 10YR6/2黒褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-3層 10YR4/4褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-4層 10YR4/2灰黄褐シルト 細～中粒砂含　φ1cm礫少量含(２自然地形の落込み)
a-5層 10YR5/3にぶい黄褐シルト 中粒砂多量含(２自然地形の落込み)
第4層-1 10YR5/4にぶい黄褐シルト 中粒砂多量含　φ1～3cm礫含(地山)
第4層-2　10YR6/6明黄褐シルト φ1～3cm礫少量含(地山)

ベルト2
第2層　10YR5/4にぶい黄褐中粒砂混シルト　φ1～3cm円礫少量含(旧耕土)
第3層　10YR6/3にぶい黄橙シルト 細砂多量含　鉄分少量沈着(包含層)
a-1層　10YR3/3暗褐シルト 中粒砂多量混(２自然地形の落込み)
a-2層　10YR6/2黒褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-3層　10YR4/4褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-4層　10YR4/2灰黄褐シルト 小円礫含(２自然地形の落込み)
a-5層　10YR4/2灰黄褐シルト(２自然地形の落込み)
a-6層　10YR4/3にぶい黄褐シルト 細砂少量含(２自然地形の落込み)
第4層-1 10YR5/4にぶい黄褐シルト 中粒砂多量含　φ1～3cm礫含(地山)
第4層-2 10YR6/6明黄褐シルト φ1～3cm礫少量含(地山)

ベルト3
第2層　10YR5/4にぶい黄褐中粒砂混シルト　φ1～3cm円礫少量含(旧耕土)
第3層　10YR6/3にぶい黄橙シルト 細砂多量　鉄分少量沈着(包含層)
a-1層　10YR4/4にぶい黄褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-2層　10YR6/2黒褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
10YR6/3にぶい黄橙シルトブロック少量含
a-3層　10YR4/4褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
a-4層　10YR5/6黄褐シルト混細砂(２自然地形の落込み)
第4層-2 10YR6/6明黄褐シルト　φ1～3cm礫少量含 (地山)

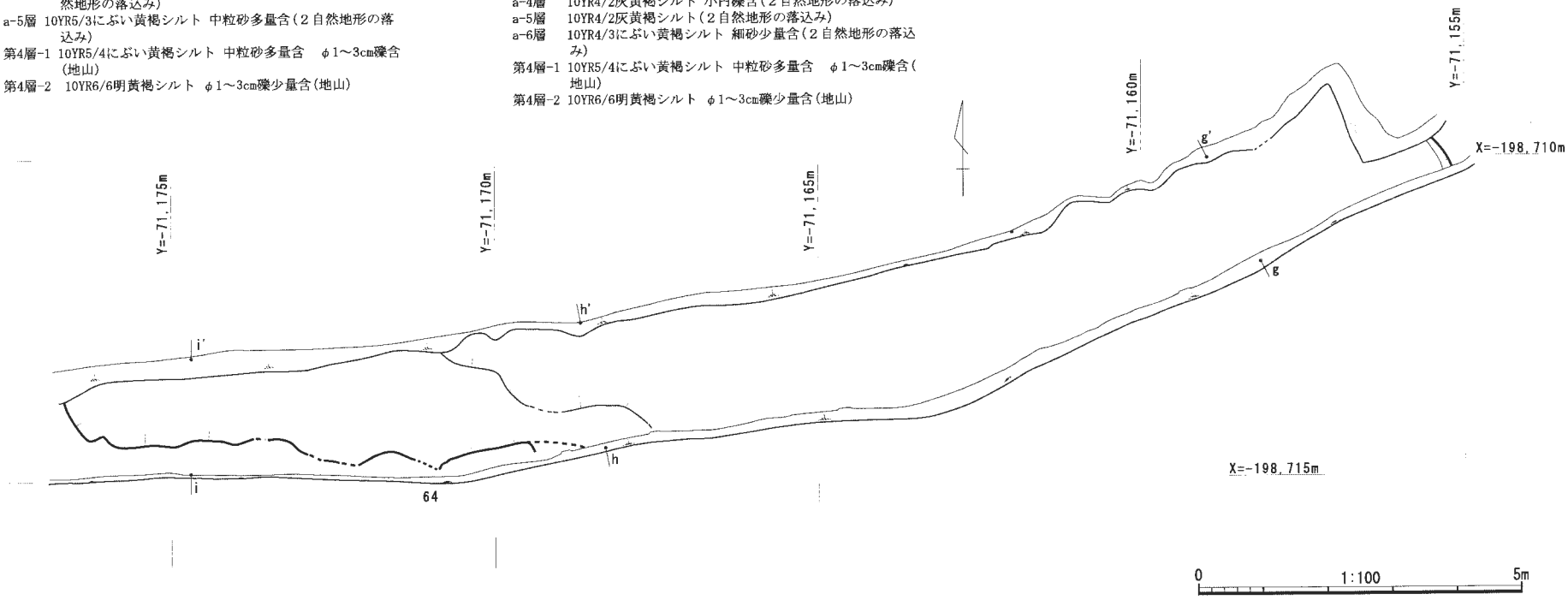


図10　2自然地形の落込み実測図

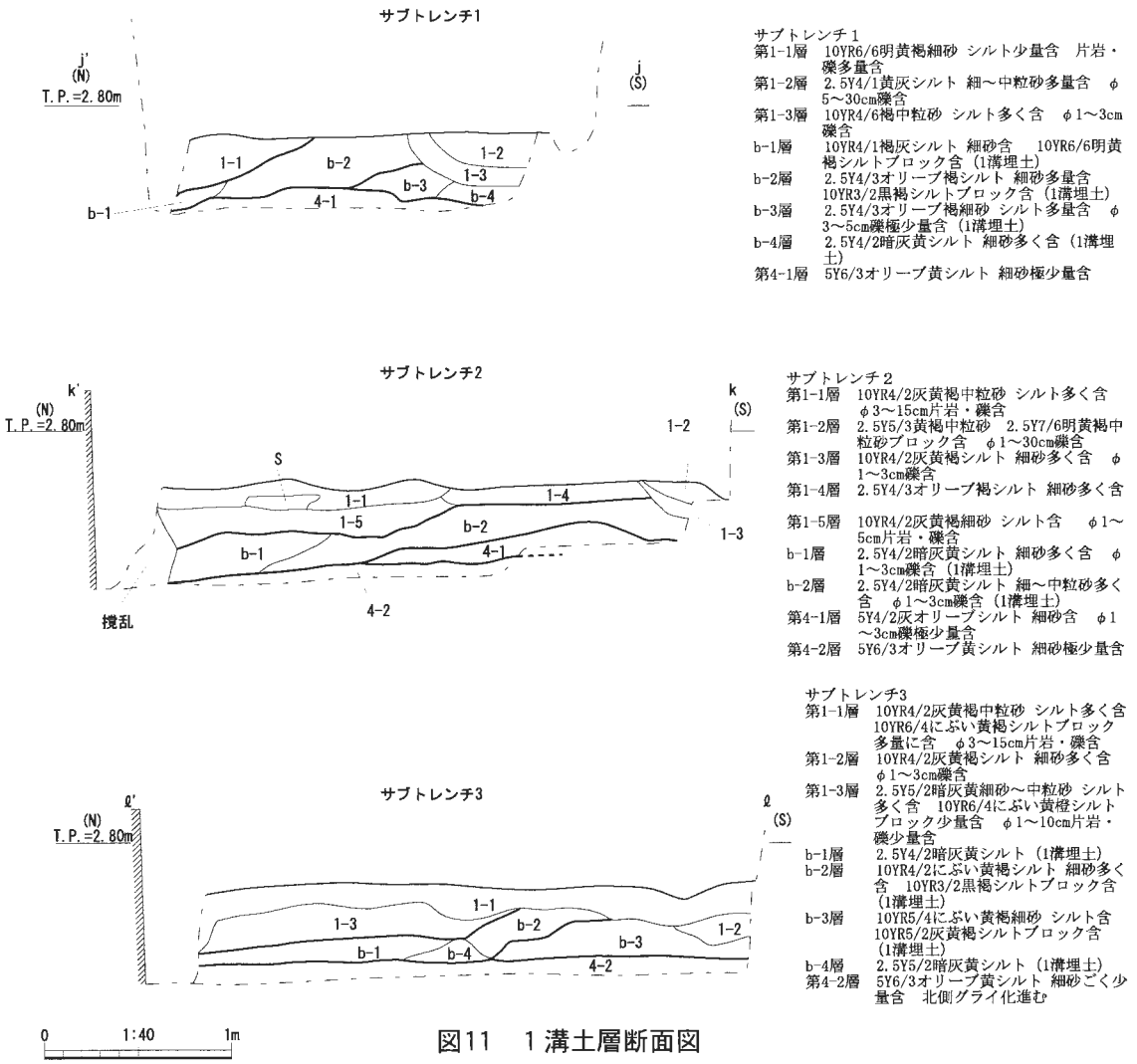


図11　1溝土層断面図

〔中世以降の遺構と遺物〕

1溝（図11、写真図版7）　調査区1で検出した溝とみられる遺構である。既設道路の攪乱により埋土も大きく削平されており、規模・断面形状等について詳細は不明なものの、検出長約30.0m、検出幅3.00mで調査区1の攪乱を受けた西側以外のすべてが遺構と考えられる。溝は調査区外北へ広がるとみられるが、隣接する現状の水路と異なり、調査区西側で北に湾曲するとみられる。調査区南側にある丘陵末端の自然地形の落込みを利用し、低湿地のシルト質土を開削した用水路の可能性が高い。出土遺物は瓦器椀（19～23）、瓦器皿（24）があり、1溝の埋没時期については12世紀ごろの可能性が高いと考えられ、中世に日前宮が土地開発に伴って開削した宮井新溝の一部と考える。

遺物包含層等の出土遺物（図12、写真図版9）

今回の調査において遺物包含層出土及び攪乱等によって原位置を離れたと見られる遺物は以下の通りである。

須恵器甕口縁部（25）、須恵器坏（26）は調査区1の1溝埋土から出土しているが他の遺物の出土状況から混入した遺物と考える。土師器土釜（27）は調査区2の既設水路の攪乱土から出土している。

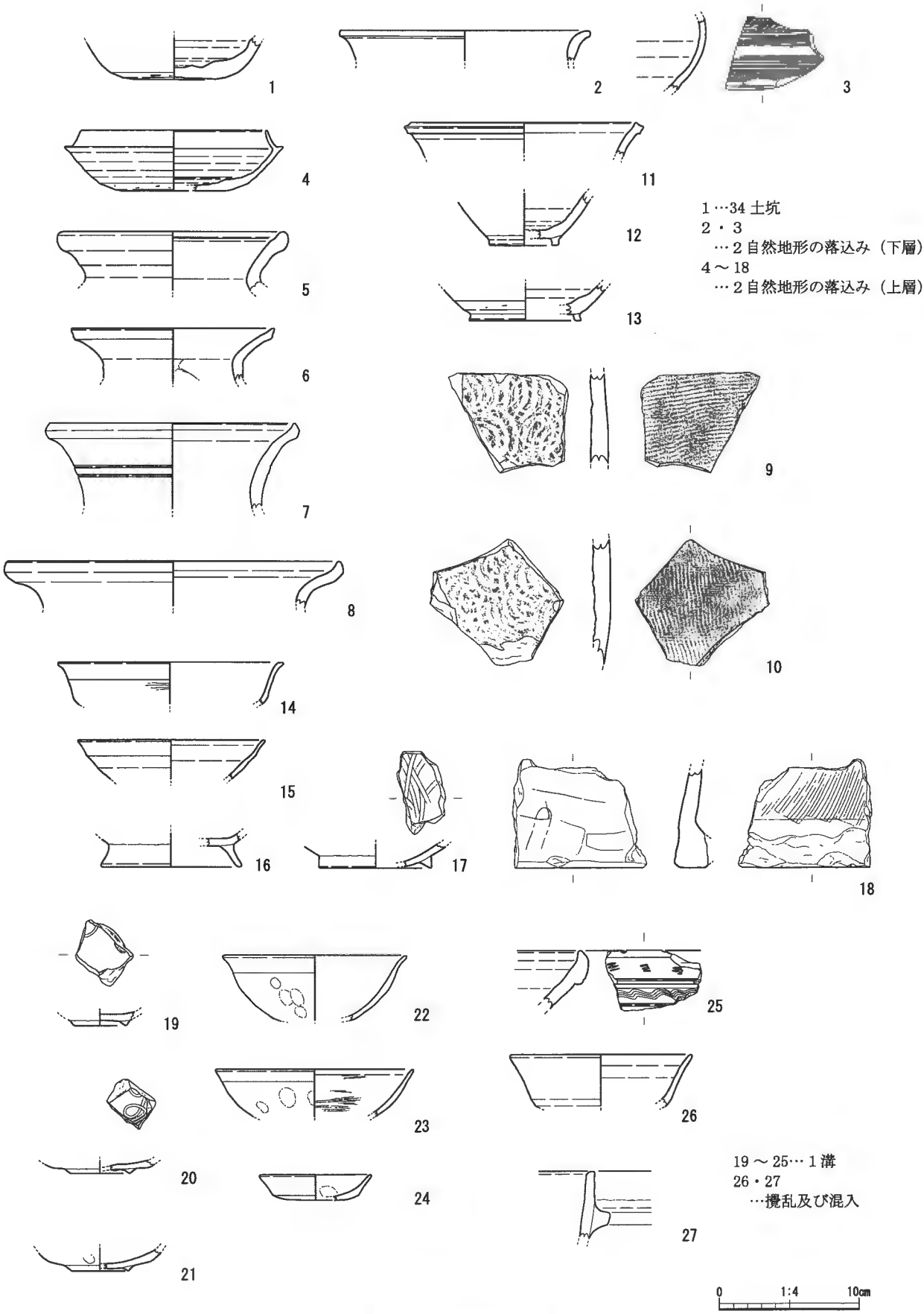

1
2
3
4
11
12
5
13
6
9
7
8
10
14
15
16
17
18
19
22
25
23
26
20
24
27
21
1…34 土坑
2・3
…2自然地形の落込み（下層）
4～18
…2自然地形の落込み（上層）
19～25…1溝
26・27
…攪乱及び混入
0
1:4
10cm

図12　出土遺物実測図

第6章　まとめ

今回の調査では、遺構が本来展開していたと考えられる丘陵末端部について既設道路及び水路の攪乱の影響を強く受けていたことが分かった。特に調査区１は遺構埋土まで攪乱の影響を強く受けており、検出した１溝の規模等については推定の域を出ない。また調査区２でも既設水路の攪乱の影響で２自然地形の落込みの全容を把握することが困難な状況である。ただし、遺構の検出状況及び土層断面、出土遺物を検討した結果、調査区周囲の土地利用について以下のように復元案を示す（図 13）。

まず古墳時代から古代にかけ、調査地南側丘陵部裾部で、谷状地形にあって比較的緩やかな傾斜を持つ部分（①）に多数の土坑・小穴が集中する（②）。今回確認した２自然地形の落込み部分がこれにあたる。これは相方遺跡における竪穴建物をはじめとした弥生時代後期から鎌倉時代まで断続的に続く人々の活動と重なる部分がある。しかし、相方遺跡で検出した竪穴建物や柱穴は確認できなかった。そのため相方遺跡における集落の居住域とは考えにくく、丘陵裾部の高まりに相方遺跡の集落の人々の活動の痕跡がわずかに残ったものと理解できる。またこの時期、調査地の北側は、基本層序第４層の自然堆積層がグライ化していることから低湿地帯が広がっていた可能性が高い。

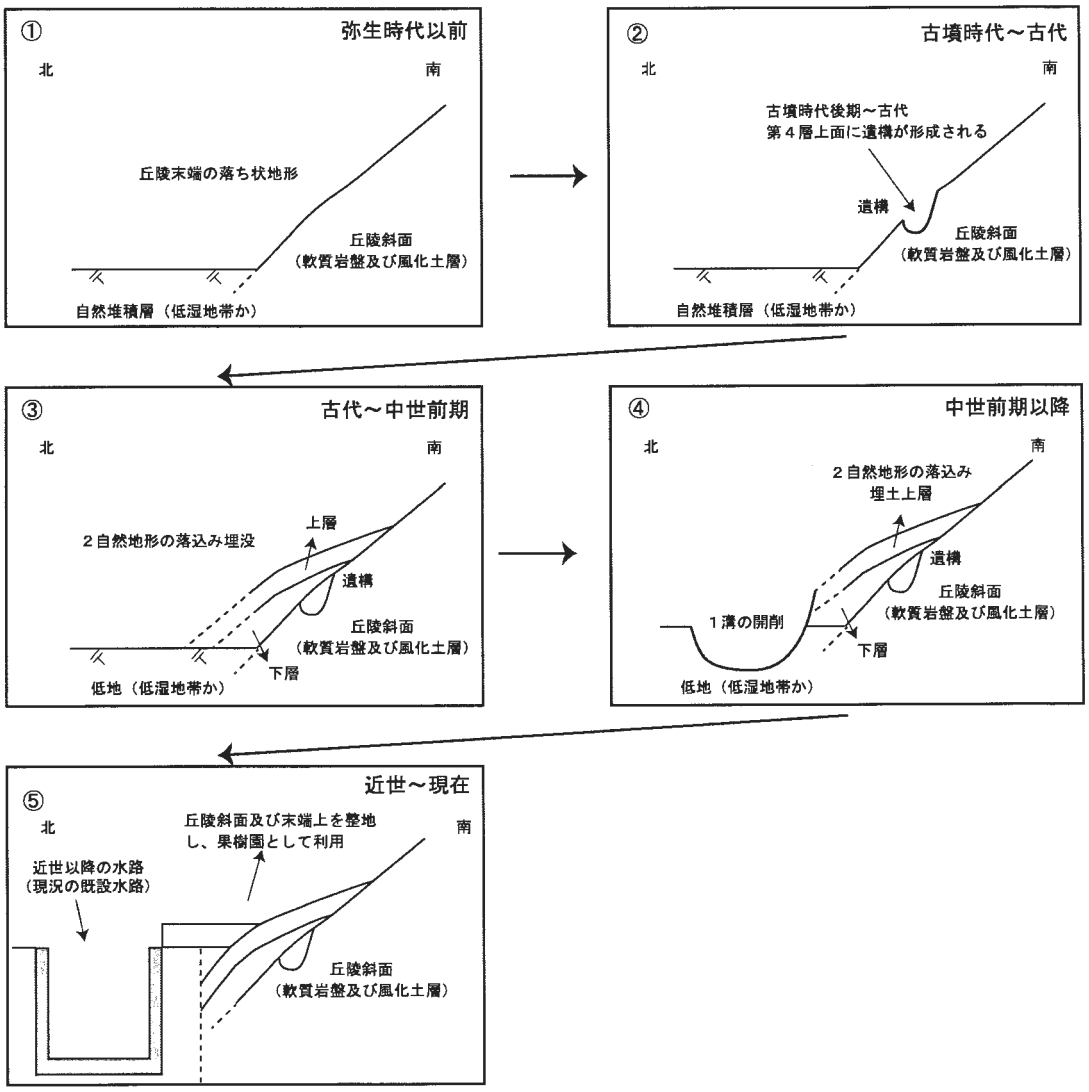


図13　調査地周辺の土地利用変遷案

次に、２自然地形の落込みが埋没する（③）。埋土の堆積状況と出土遺物から、南側の丘陵上及び斜面の遺構を浸食し、堆積土に含まれる遺物を押し流しながら次第に埋没していったと考えられる。また、２自然地形の落込みから出土する遺物の中には、個体数を復元できないものの、須恵器の大甕の体部とみられる破片が出土している。現状、調査区南の丘陵上に古墳は確認できないが、岩橋千塚古墳群寺内地区では須恵器祭祀を伴う古墳の存在が発掘調査から明らかになっており、同様の須恵器祭祀を伴う古墳が存在していた可能性がある。２自然地形の落込みの埋土下層から中世の遺物が出土しないこと、埋土上層からは古代末から中世前半とみられる土師器の細片や瓦器椀片が出土することから、埋没時期は古代末と鎌倉時代の２時期が想定できる。

一方、湿地帯が広がっていた調査区１付近では、出土した遺物から 12 世紀以降、用水路とみられる１溝が掘削され、調査区北側へ生産域が拡大していたと考えることができる（④）。その後、この１溝を踏襲しながら次第に丘陵裾部に沿うように北及び南側に延長され、現在の用水路と生産域を形成していったと考えられる（⑤）。

今回の発掘調査は埋蔵文化財包蔵地図によれば岩橋千塚古墳群寺内地区の範囲であるが、検出した遺構及び出土遺物の内容は相方遺跡に由来するものと考えられ、当該遺跡の範囲の想定については更なる調査を要すると考える。

表３　出土遺物観察表　※（　）は復元値

報告書番号	実測番号	登録番号	地区	遺構層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	残存率(部位)	形態・技法	胎土	焼成	色調	備考
1	23	088	2区 p4区画	34 埋土	須恵器	坏身	－	3.0+	(7.3)	底部 60%	外面底部に回転ヘラケズリ、内面･外面体部に回転ナデ、右回り	やや粗　1～2mmの石英?微量	良好	内断面:灰白 外面:黄灰	反転復元
2	19	073	2区 q区画	2 埋土3層 (黒褐色土)	土師器	甕	(17.8)	2.1+	－	5%以下	全体にヨコナデか?	密　細かい白色砂粒多量	良好	内面:明赤褐～灰褐 外面:明赤褐 断面:灰褐	反転復元
3	25	069	2区 q区画	2 埋土3層 (こげ茶の下)	須恵器	壺?	－	(5.1)	－	5%以下	内面に回転ナデ、外面上部にカキ目･刺突文?、外面下部にカキ目、ナデか	密　最大2mm位の石英?微量	良好	内面:灰 外面:黄灰 断面:にぶい黄褐	
4	9	055	2区 p小区	埋土上層 (こげ茶)	須恵器	坏身	(13.3)	4.3	(7.5)	20%	内外面に回転ナデ、外面底部に回転ヘラケズリ、左回りか	密　最大2mm位の石英?微量	良好	内外断面:灰	反転復元
5	12	062	2区 p区画	2 埋土上層 (黒褐色土)	須恵器	壺? 口縁部	(16.0)	4.2+	－	口縁部 20%	内外面に回転ナデ、内面･口縁部･外面顎部に自然釉?	密　1～6mm位の石英多量	良好	内面:褐灰 外面:灰 自然釉:灰白～にぶい黄橙 断面:赤灰	反転復元
6	15	060	2区 o区画	2 埋土2層 (こげ茶色土)	須恵器	壺 or 甕 口縁部	(14.6)	3.8+	－	口縁部 5%	内外面に回転ナデ、内外面顎部にナデ	密　細かい白色砂粒少量	良好	内外断面:灰白	反転復元
7	14	063	2区 p区画	2 埋土2層 (こげ茶色)	須恵器	壺 or 甕 口縁部	(17.4)	6.1+	－	5%以下	内外面に回転ナデ、全体に自然釉付着	密　細かい白色砂粒少量	良好	内面:オリーブ黒 外面:黄灰～オリーブ黒 断面:にぶい黄橙	反転復元
8	13	066	2区 p区画	2 埋土2～3層 (こげ茶色土層)	須恵器	甕 口縁部	(23.4)	3.2+	－	口縁部 10%	内外面に回転ナデ、内面･口縁部に自然釉付着	密　1～4mm位の石英少量	良好	内面:褐灰 外面:灰 断面:灰褐	反転復元
9	26	060	2区 o区画	2 埋土2層 (こげ茶色土)	須恵器	甕 体部	－			5%以下	同心円文、タタキ後カキ目	密　細かい白色砂粒多量、最大7mmの石英微量	良好	内断面:灰 外面:灰黄褐	
10	27	060	2区 o区画	2 埋土2層 (こげ茶色土)	須恵器	甕 体部	－			5%以下	同心円文、タタキ後カキ目、自然釉付着か?	密　細かい白色砂粒多量	良好	内外面:黄灰 断面:灰～黄灰	
11	21	063	2区 p区画	2 埋土2層 (こげ茶色)	須恵器	甕 口縁部	(16.0)	2.2+	－	5%以下	全体に回転ナデ	密　細かい白色砂粒少量	良好	内外断面:灰白	反転復元
12	10	067	2区 q区画	2 埋土1層 (黒褐色土)	須恵器	脚付壺? 底部	－	3.7+	(4.8)	高台部 25%	内外面に回転ナデ、外面底部に回転ヘラケズリ、貼り付け高台	密　細かい白色砂粒微量	良好	内外面:灰 断面:灰褐	反転復元
13	20	063	2区 p区画	2 埋土2層 (こげ茶色)	須恵器	脚付壺? 底部	－	2.5+	(8.0)	高台部 15%	内面･外面上部に回転ナデ、外面下部に回転ヘラケズリか?、貼り付け高台	密　細かい白色砂粒少量	良好	内面:灰 外面:灰白～灰 断面:灰白	反転復元
14	24	075	2区 v区画	2 埋土2層 (こげ茶色土)	土師器	坏	(15.7)	3.0+	－	5%以下	口縁部ヨコナデ、内面･外面下部にヘラミガキか?、磨滅のため調整不明瞭	密	良好	内面:橙 外面:にぶい褐 断面:明赤褐	反転復元
15	18	066	2区 p区画	2 埋土2～3層 (こげ茶色土層)	土師器	椀?	(13.3)	2.8+	－	5%以下	口縁部ヨコナデ、内外面にユビオサエ･ナデあり	密　細かい赤色酸化粒少量	良好	内外断面:橙	反転復元
16	17	063	2区 p区画	2 埋土2層 (こげ茶色)	土師器	鉢?	－	2.4+	(10.0)	高台部 10%	内外面ナデか?、貼り付け高台	密　1mm以下～3mm位の赤色酸化粒少量	良好	内外断面:橙	反転復元
17	11	060	2区 o区画	2 埋土2層 (こげ茶色土)	黒色土器A類	椀	－	1.7+	高台 (8.0)	高台部 25%	外面ナデ、貼り付け高台、内面にヘラミガキ(不明瞭)	密　1mm以下の赤色酸化粒少量、1～2mmの石英微量	良好	内面:黒褐 外面:にぶい橙～浅黄橙 断面:にぶい橙	反転復元
18	16	062	2区 p区画	2 埋土上層 (黒褐色土)	土師器	かまど	長さ 7.7+	幅 9.6+	厚さ 1.1	5%以下	ユビオサエ･工具によるナデか、ハケ5本/1cm?	密　細かい石英･赤色酸化粒中量	良好	内面:にぶい橙 外面:橙 断面:灰黄褐	
19	4	035	1区 p3区画	1 埋土下層 (旧遺構面)	瓦器	椀	－	1.0+	(3.8)	高台部 50%	貼り付け高台、内面に見込･ヘラミガキあり?、磨滅のため調整不明瞭	密　1mm位の赤色酸化粒少量	良好	内外面:灰 断面:灰白	反転復元
20	8	036	1区+2区画	1 埋土下層 (旧遺構面)	瓦器	椀	－	1.0+	(4.3)	高台部 20%	外面にユビオサエ･ナデあり、貼り付け高台、粘土付着か、内面にヘラミガキ(不明瞭)	密　細かい黒色粒少量	良好	内面:灰 外断面:灰白	反転復元
21	3	034	1区 s3区画	1 埋土下層 (旧遺構面)	瓦器	椀	－	1.6+	(4.0)	高台部 30%	外面にユビオサエ･ナデあり、貼り付け高台、内面にヘラミガキか、磨滅のため調整不明瞭	密　細かい石英(?)微量	良好	内外面:灰 断面:灰白	反転復元

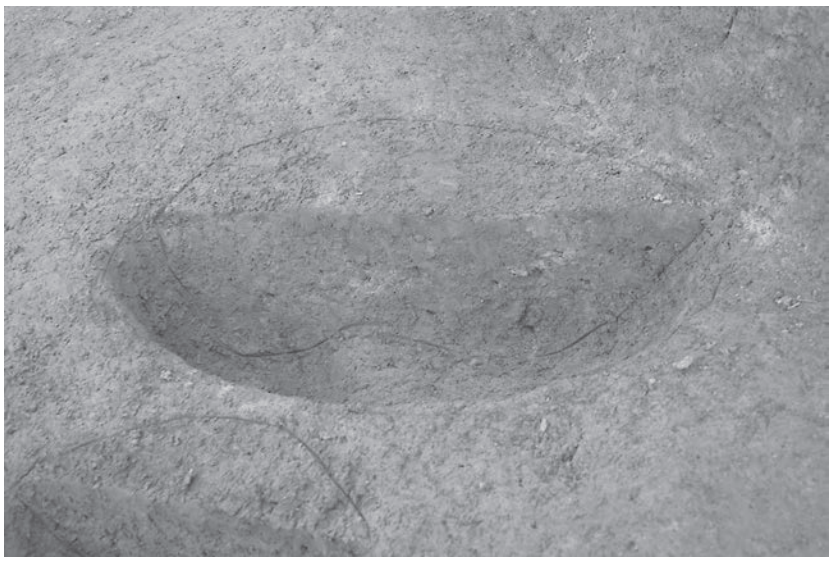
報告書番号	実測番号	登録番号	地区	遺構層位	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	残存率(部位)	形態・技法	胎土	焼成	色調	備考
22	5	033	1区 v3区画	1 埋土下層(旧遺構面)	瓦器	椀	(13.0)	4.6+	-	20%	外面にユビオサエ・ナデあり、口縁部にヨコナデ一段、外反する、内面ヘラミガキか?、磨滅のため調整不明瞭	密 最大2mm位の石英?微量	良好	内外面:灰白～灰 断面:灰	紀伊型か 反転復元
23	7	036	1区+2区画	1 埋土下層(旧遺構面)	瓦器	椀	(14.0)	3.4+	-	10%	外面にユビオサエ・ナデあり、口縁部ヨコナデ一段・やや外反する、内面にヘラミガキ(不明瞭)	密	良好	内外面:暗灰 断面:灰白	反転復元
24	2	005	1区	東端から②遺構面直上	瓦器	皿	(8.0)	1.8	(6.0)	20%	口縁部にヨコナデ、内外面にユビオサエ・ナデあり	密	良好	内外断面:灰	反転復元
25	1	005	1区	東端から②遺構面直上	須恵器	壺 口縁部	-	4.1+	-	5%以下	内外面に回転ナデ、外面に回転ヘラケズリ・波状文あり	密 最大3mm位の石英微量	良好	内面:黄灰 外面:灰 断面:灰白	
26	6	036	1区+2区画	1 埋土下層(旧遺構面)	須恵器	坏	(13.0)	3.7+	-	10%	内外面に回転ナデ、口縁部やや外反する	密	良好	内外断面:灰	反転復元
27	22	051	2区	水路南側撹乱 南壁 黒褐色土 カルバート近く	土師器	土釜	-	4.8+	-	5%以下	口縁部ヨコナデ、内面に工具によるナデか?、鍔部貼り付け	密 1～5mmの石英中量、1～6mmの片岩中量、1～2mmの赤色酸化粒少量	良好	内外面:橙 断面:明赤褐	

1　調査地遠景（北東から）

2　調査前風景（西から）

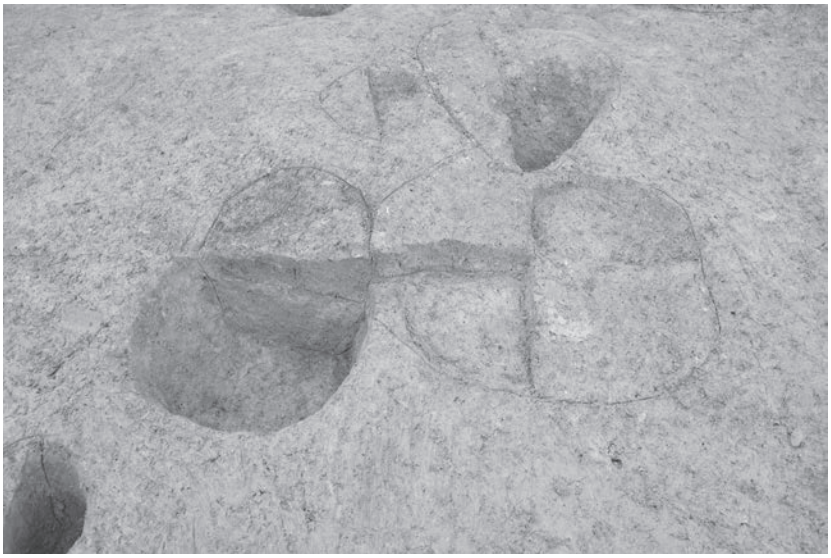
1　30土坑南壁土層断面
（北から）

2　31土坑南東壁土層断面
（北西から）



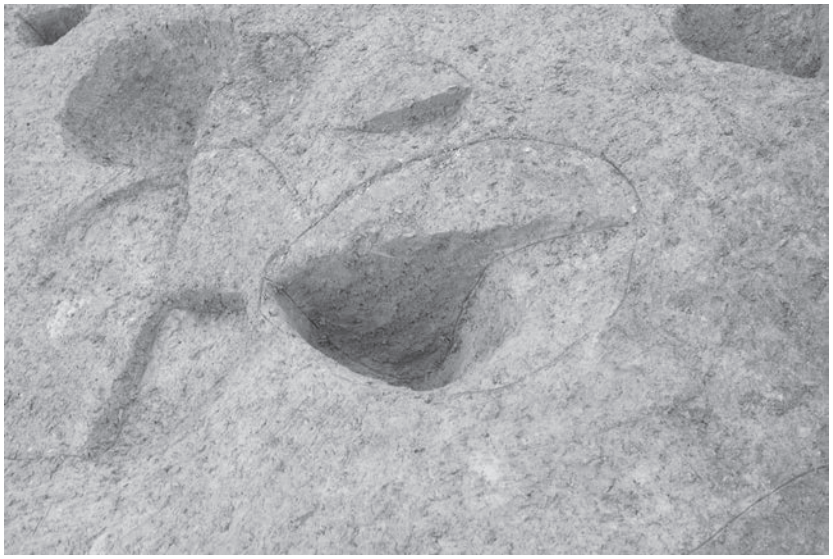
3　34土坑東壁土層断面
（西から）

1　37小穴北東壁土層断面
（南西から）



2　46・48土坑南壁土層断面１
（北から）

3　48土坑北壁土層断面２
（南から）



1　46・49土坑東壁土層断面
（西から）

2　48土坑西壁土層断面
（東から）

3　52・53土坑北壁土層断面
（南から）

1　2自然地形の落込みベルト1
土層断面（西から）

2　2自然地形の落込みベルト2
土層断面（西から）

3　2自然地形の落込みベルト3
土層断面（西から）

1　土坑・小穴完掘状況（北から）

2　2自然地形の落込み・土坑・小穴完掘状況（北東から）

1　1溝サブトレンチ1土層断面
（東から）

2　1溝サブトレンチ2土層断面
（西から）

3　1溝サブトレンチ3土層断面
（西から）

写真図版8　出土遺物1

1

2

3

4

5

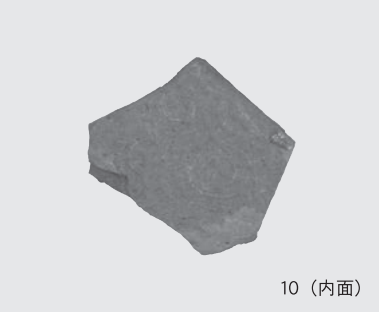
6

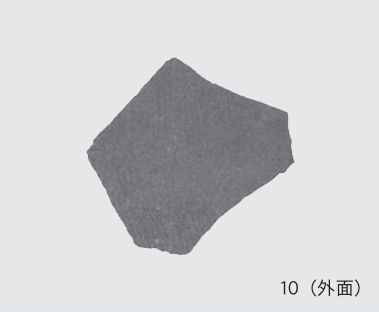
7

9（内面）

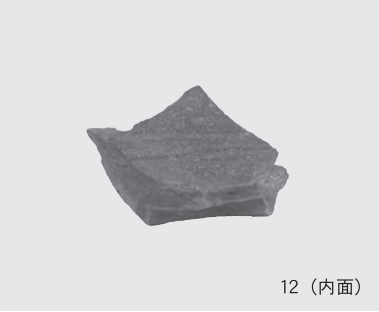
9（外面）

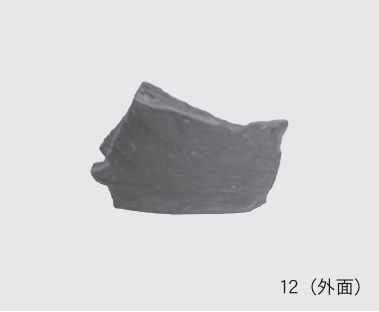
8


10（内面）


10（外面）

11


12（内面）


12（外面）

13

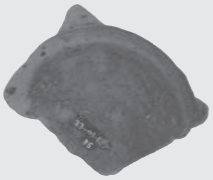
14

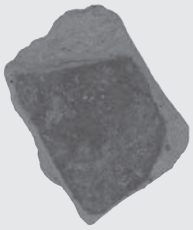
15

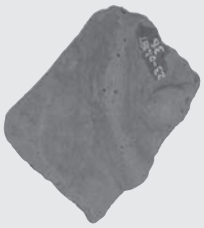
16

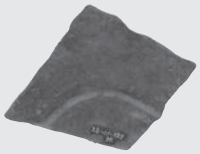
17

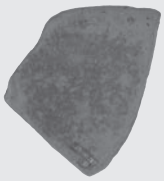
18


19

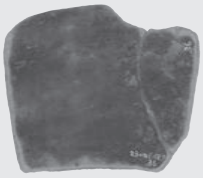

20（内面）

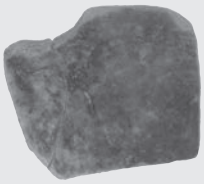

20（外面）

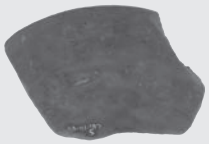

21

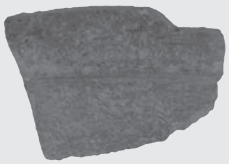

22（内面）

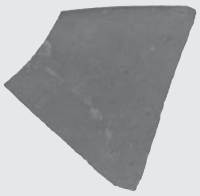
22（外面）


23（内面）


23（外面）


24


25


26

27

報告書抄録

ふりがな	いわせせんづかこふんぐんてらうちちく
書　　名	岩橋千塚古墳群寺内地区
副 書 名	和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書
巻次	―――
シリーズ名	―――
シリーズ番号	―――
編著者名	濵﨑範子
編集機関	公益財団法人　和歌山県文化財センター
所在地	〒640-8301　和歌山市岩橋1263番地の1　　TEL 073－472－3710
発行年月日	西暦2024年3月8日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いわせせんづかこふんぐん 岩橋千塚古墳群 てらうちちく 寺内地区	わかやまけん 和歌山県 わかやましもりおてぼちない 和歌山市森小手穂地内	302015	187	34°12′22.71″	135°13′39.66″	20230710～20231108	428.2㎡	和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岩橋千塚古墳群寺内地区	古墳群	古墳時代～古代	土坑、小穴、自然地形の落込み、溝	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、国内産陶磁器	古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝のほか、中世以降に埋没した自然地形の落込みを検出した。

要約	岩橋千塚古墳群寺内地区南西端に位置する調査区で、古墳時代後期から古代にかけての土坑や小穴、溝や古代から中世にかけて埋没したとみられる自然地形の落込みを確認した。また、中世以降に埋没したと考えられる東西方向の溝を確認したが、これは宮井新溝の一部である可能性が考えられる。 出土した遺物は調査地東方に位置する相方遺跡と共通するものがあり、調査地の周囲は相方遺跡の一部と評価することができる。また、出土した遺物には古墳時代後期とみられる須恵器の大甕の破片が複数点確認できたことから、調査地南側の丘陵上及びその斜面地に、古墳が所在していた可能性が考えられる。

岩橋千塚古墳群寺内地区
―和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書―
2024 年 3 月 8 日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
〒640-8301　和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の 1
印刷・製本：初田印刷株式会社
〒640-8137　和歌山市吹上５丁目４－40